

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

2016年度
年次報告書



和歌山大学
国際観光学研究センター

Contents

1	ごあいさつ	4
2	国際観光学研究センターについて	5
2.1	ミッション	5
2.2	機能と国際的側面	5
2.3	運営体制	5
2.3.1	組織図	5
2.3.2	意思決定機関	6
2.4	活動内容	7
2.4.1	制度設計	7
2.4.2	研究活動	7
2.4.3	研究・教育サポート	7
2.4.4	広報、アドボカシー	8
3	活動報告	9
3.1	制度設計	9
3.1.1	研究ユニット	9
3.2	研究活動	13
3.2.1	研究員一覧	13
3.2.2	研究員別業績一覧	17
3.2.3	登録プロジェクト一覧	40

3.3	研究・教育サポート	43
3.3.1	英文論文集、出版計画	43
3.3.2	翻訳支援	44
3.3.3	研究資料整備	44
3.3.4	観光学部授業科目の開講支援	45
3.3.5	GP受講学生支援	47
3.3.6	外部機関連携活動の支援・促進	47
3.3.7	UNWTO. TedQual申請	49
3.3.8	GP担当教員のFD活動支援	50
3.4	広報、アドボカシー	50
3.4.1	学会スポンサー参加	50
3.4.2	オープンキャンパスでの広報活動	51
3.4.3	ニュースレター発行	51
3.4.4	外部機関との連携促進	52
3.4.5	学会、イベント参加等	54
3.4.6	オープンセミナーの企画・運営	59
3.5	その他	65

1 ごあいさつ

和歌山大学国際観光学研究センター 2016年度年次報告発刊にあたって



和歌山大学は、観光学の分野において学部から博士後期課程まで一貫した教育課程を有する唯一の国立大学として、観光学術学会や関西観光教育コンソーシアムの設置に貢献するほか、日本における観光学教育研究の確立と国内観光系学部・学科の連携促進に取組み、また、英サリー大学や豪クイーンズランド大学など観光学で世界をリードするトップレベルの大学との国際的な連携も推進してきたところです。

このような取組みが評価され、2015年度文部科学省における「大学改革に積極的な取り組みを行う大学を重点支援するための国立大学の機能強化」予算において、本学の「国際観光学センター（仮称）構想」が認定され、また、2016年度から始まった第3期中期目標・中期計画においては、「観光学分野で世界トップクラスの大学から世界一線級の研究者を招へいし、教育研究の水準を高め、国連世界観光機関が実施する観光教育・訓練・研究機関認定（UNWTO. TedQual）の取得等を通じ、アジアにおける観光学教育研究の拠点となる。」という本センターの構想が、文部科学省国立大学法人評価委員会において「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」に認定されました。

今年度は「国際観光学研究センター」を設置し、上記のほか海外5大学から6名の研究者を特別主幹教授として招へい、彼らを中心とする10の研究ユニットに本学の教員が学部・研究科を越えて横断的に参画し、研究を推進しています。また、特別主幹教授は、2016年度の観光学部改組により設置したグローバル・プログラム（専門科目の全てを英語で履修可能とするプログラム）における講義・演習など観光学教育の国際化にも寄与していただいています。観光学部におけるTedQual取得後は研究科においても認証を取得し、教育研究の両面において観光学の拠点を目指してまいります。

国際観光学研究センター長 藤田武弘

2 国際観光学研究センターについて

2.1 ミッション

観光学研究の高度化を通じて、健全で持続可能な社会の発展に寄与する。

2.2 機能と国際的側面

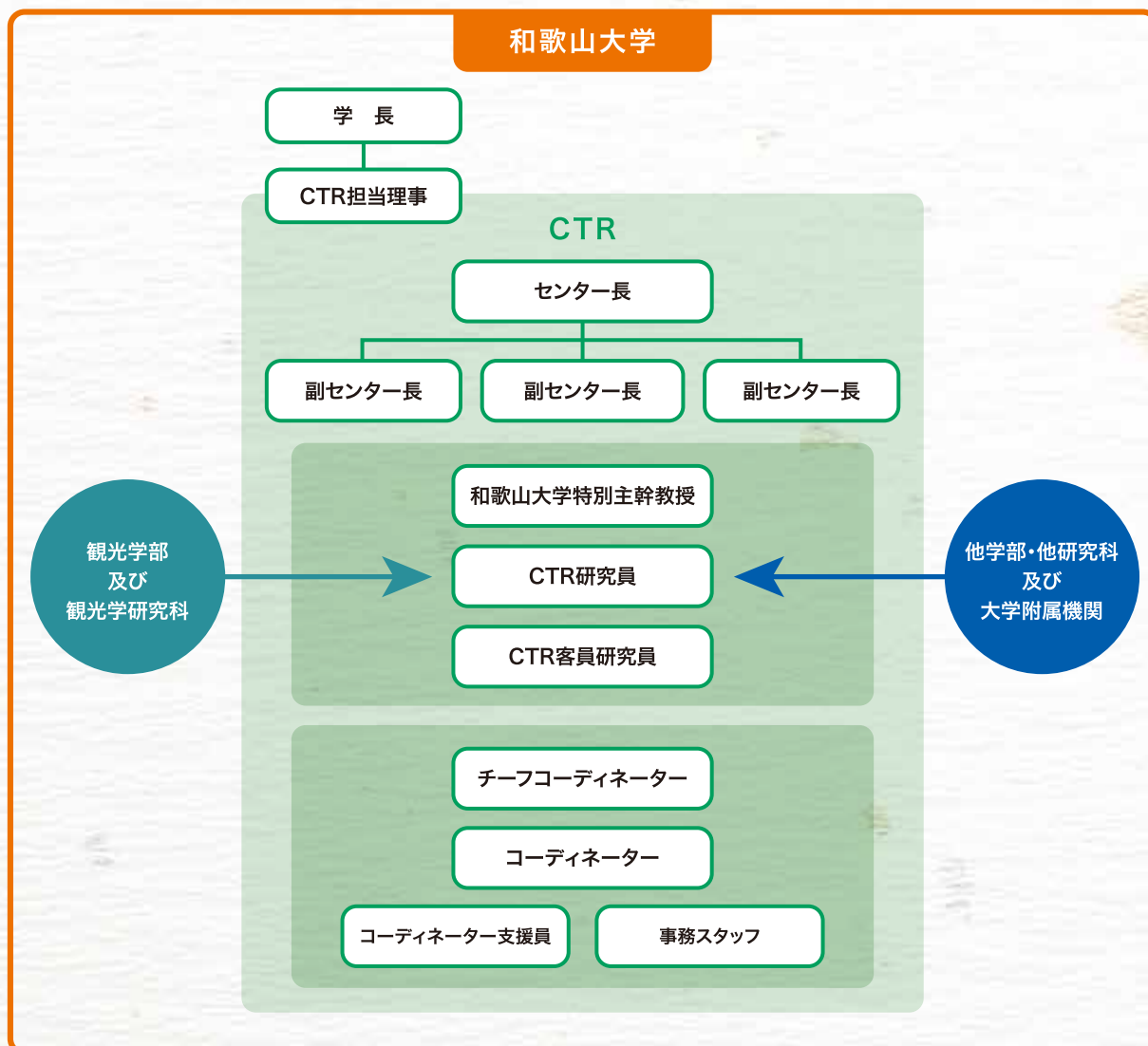
- 日本、アジア太平洋地域における観光学研究の牽引
- 国内外の主要な観光学研究機関との連携強化

2.3 運営体制

2.3.1 組織図

国際観光学研究センター(CTR)機構

2017年3月現在



運営管理組織



2.3.2 意思決定機関

運営協議会	毎年の業績報告を回覧し意見聴取。重要事項について適宜意見聴取。
常任運営委員会	日常的な意思決定及び、教員評価・機関評価、テニュアトラック管理・評価。
運営委員会	重要事項に関する意思決定・執行機関。
研究委員会	研究活動全般に関する進捗管理。研究関連イベントの企画。

ユニット会議	研究組織の基本フレーム。必要に応じて会議を開催し独自活動を展開。
教育支援部会	観光学部のGP(グローバル・プログラム※専門科目のすべてを英語による講義で履修可能とするプログラム)や留学生教育における英語化教育を支援。観光学部のGP担当者会議と連携。
広報担当者会議	広報活動全般。各種イベントの運営・実務。ニュースレター等の発行。
実務担当者会議	実務担当者の業務確認・業務分担等の認識共有。

2.4 活動内容

2.4.1 制度設計

●各規程策定

●研究ユニット制定

●CTR研究員制度策定

■CTR研究員登録申請受付(特別主幹教授:6名、CTR専任研究員:4名、観光学部:26名、学内他学部等:14名)

■CTR客員研究員制度策定(客員フェロー制度)(CTR客員特別研究員:25名、CTR客員一般研究員:3名)

●CTRスタッフの採用

■特別主幹教授(雇用契約:3名は2015年度、3名は2016年度より採用)

■CTR専任研究員(雇用契約:1名は2016年3月、3名は2016年4月より採用)

■CTR特任教員(雇用契約:3名は2015年度、2名は2016年度より採用)

2.4.2 研究活動

●研究ユニットの活動

●プロジェクト登録

■研究プロジェクト:41件(外部資金プロジェクト含む)

2.4.3 研究・教育サポート

●英文論文集、出版計画

■学術誌「Tourism Planning & Development」日本特集号の出版プロジェクト

■書籍「ここからはじめる観光学」の出版プロジェクト

●翻訳支援

- 国連世界観光機関(UNWTO)Tourism Highlights 2016

●研究資料整備

- CTR所有図書の出出開始
- 主要図書購入

●学会等イベント開催支援

- オーストラリア学会「2016年度総会・全国研究大会」及び「第9期第7回理事会」共催
- 観光学術学会「第4回研究集会」共催

●観光学部授業科目の開講支援

- 特別主幹教授およびCTR専任スタッフによる授業科目開講支援
- 連携機関からのゲストレクチャー招へい
- GIP(Global Intensive Project※海外研修プログラム)の支援
- LIP(Local Internship Program)プログラム化支援

●GP受講学生支援

- 英語サポートクラス
- GP受講学生のコンサルテーション

●外部機関連携活動の支援・促進

- 太平洋アジア観光協会(PATA)へのインターン派遣、学生支部設立
- ASEAN Plus Three Tourism Youth Summit 2016への派遣協力
- UNWTO国際会議運営学生ボランティア派遣協力
- UNWTO Tourism Highlights 2016学生翻訳ボランティア支援
- UNWTO 学生ボランティアグループ(仮)の活動支援
- 海外教育研究機関との連携拡充
- 高大連携における模擬講義の実施

●UNWTO. TedQual(観光学教育研究プログラム国際認定)申請準備・対応

●GP担当教員のFD(Faculty Development)活動支援

2.4.4 広報、アドボカシー

●広報ツールの作成

- CTRウェブサイトの拡充、リーフレット、観光学部との共同パンフレット、紙バッグ、封筒、クリアフォルダー、ノベルティの作成

- 学会スポンサー参加
- オープンキャンパスでの広報活動(CTRパネル展示)
- ニュースレター発行
- 外部機関との連携促進
 - UNWTO主催会議、地域大会への参加、招へい等
- 学会、イベント参加
- 国内外観光教育研究機関等とのネットワーキング
- オープンセミナーの企画運営
 - 観光教育研究セミナー(全11回)
 - 公開セミナー、ワークショップ(全5回)
 - 世界観光の日(World Tourism Day) 記念講演会

3 活動報告

3.1 制度設計

3.1.1 研究ユニット

CTRでは、10の研究ユニットを組織し、共同研究や研究会等の活動を推進できる環境を整備している。各ユニットは、研究プロジェクト及び当該専門領域を研究課題とする個人から構成される。研究単位は主として研究プロジェクトとなる。観光学研究の主要な柱となるユニットをKey Research Unit、CTRが課題と考えるユニットをStrategic Research Unit、外部機関との密な連携を活動の中心に据えるユニットをCooperative Research Unitとして区分している。CTR研究員はいずれかのユニットに属すが、各ユニットやプロジェクトの独自性や個性を踏まえつつ、可能な限り自由な研究活動を促進することを目指す。

Key Research Units

ユニット	Tourism & Sustainability
概要	サステナビリティは、その影響力及び要請が高まっている観光において優先的課題と見做されている。本ユニットでは、観光におけるサステナビリティの環境、社会文化、経済、マネジメントの側面をクリティカルに分析し、学術的及び社会的貢献をめざす。
リーダー	Graham Miller
サブリーダー	加藤 久美
メンバー	Abhik Chakraborty、Adam Doering、Amnaj Khaokhrueamuang、足立 基浩、大浦 由美、笹森 琴絵、出口 竜也、中串 孝志、永瀬 節治、藤田 武弘、堀田 祐三子

Key Research Units

ユニット	Tourism & Development
概要	政策、プランニング、ガバナンス、マネジメントなど観光開発に関する広範にわたる諸課題について、都市と農村、過去と現在及び多様な地理的範囲や社会、文化、経済的発展の様々な局面において調査・研究を行う。
リーダー	Richard Sharpley
サブリーダー	堀田 祐三子
メンバー	Amnaj Khaokhrueamuang、大浦 由美、木川 剛志、澤田 知樹、藤田 武弘

ユニット	Tourism & Culture, Heritage
概要	文化遺産のマネジメント、保全及び開発に関する広い課題について、クリエイティブ・ツーリズムなどの新しいアプローチも取り入れつつ研究する。歴史的地域、建造環境や都市、農村や農業景観、自然環境、特徴ある文化が存続する地域及び無形遺産の保全や再生なども課題とする。
リーダー	Anna Leask
サブリーダー	吉田 道代
メンバー	Abhik Chakraborty、王 妙発、大橋 直義、小野 健吉、海津 一朗

ユニット	Tourism Management
概要	観光目的地や観光ホスピタリティ産業を支援する新たな知識や知見の創造及び普及は、より効果的効率的な意思決定を実現する。知識及び知見は、競争優位を創出するための政策立案及び計画や戦略の策定に資するものである。本ユニットの研究課題としては、リスク・マネジメントや戦略的プランニング及びマネジメント、政策、マーケティング、経済、イノベーション、成果測定手法等が想定される。
リーダー	Brent W. Ritchie
サブリーダー	佐野 楓
メンバー	大井 達雄、佐々木 壮太郎、竹田 明弘、竹林 明、竹林 浩志、出口 竜也、永井 隼人、廣岡 裕一、八島 雄士

Strategic Research Units

ユニット	Tourism & Sports
概要	ツーリズムに関連した余暇・レジャー及びスポーツの理論構築やそれらの諸活動や行動に関する実用的意義を研究対象とする。特に、今日におけるスポーツや余暇・レジャーの社会、文化、地域に関する意義について研究する。間もなく開催予定のラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021といった大型イベントに関連するスポーツツーリズムやイベント・マネジメントについて調査・研究していく。
リーダー	Thomas Hinch
サブリーダー	Gordon J. Walker、伊藤 央二
メンバー	Adam Doering、Sheranne Fairley、河野 慎太郎、竹林 明、山口 志郎

ユニット	Tourism & Digital Media, Information
概要	IT、デジタルメディア及び新領域のビッグデータの利活用を優先的課題とし、観光統計によるトレンド、インパクト、動向分析やその応用に活用する。観光学部ドームシアター設備を活かした特徴あるコンテンツ開発も含む。
リーダー	尾久土 正己
サブリーダー	吉野 孝
メンバー	大井 達雄、小形 正嗣、木川 剛志、北村 元成、中串 孝志、野津直樹、宮部 真衣、吉住 千亜紀

ユニット	Tourism & Space, Mobility
概要	観光の基盤的理念としての空間、モビリティ研究に取り組む。「宇宙空間と観光」などの学際的分野にも取り組む。
リーダー	中串 孝志
サブリーダー	尾久土 正己
メンバー	秋山 演亮、大貫 美鈴、辻本 勝久、山崎 直子

Cooperative Research Units

ユニット	Tourism Education
概要	教育の理念及び方法論、内容、カリキュラムデザインなど今日求められる高等観光教育の充実を図るべく、学際的視点からの研究促進を目的に、学部専任教員それぞれが多様な研究テーマでの競争的資金の獲得を実現している。とりわけ科学研究費補助金については、平成28年度に公開された研究分野別取得実績(観光学)において、全国第一位の実績を誇っている。
リーダー	藤田 武弘
サブリーダー	神田 孝治
メンバー	足立 基浩、伊藤 央二、王 妙発、大井 達雄、大浦 由美、大西 敏夫、尾久土 正巳、小野 健吉、海津 一郎、加藤 久美、木川 剛志、岸上 光克、北村 元成、佐々木 壮太郎、佐野 楓、澤田 知樹、竹田 明弘、竹鼻 圭子、竹林 明、竹林 浩志、辻本 勝久、出口 竜也、中串 孝志、永瀬 節治

ユニット	Tourism & Food, Agriculture
概要	持続可能な開発や保全などの先進的な視点から、地域の食と経済、食の安全、農業景観と経済などを探求する。また、本学「食農総合研究所」との連携により、和歌山地域をはじめ、日本全国の課題を対象として取り組む。
リーダー	大西 敏夫
サブリーダー	藤田 武弘
メンバー	Amnaj Khaokhrueamuang、植田 淳子、大浦 由美、岸上 光克、辻 和良

ユニット	Tourism & DMO
概要	観光目的地のマネジメント、サービス・ホスピタリティの向上及び経済的発展を推進する日本版DMOの普及促進について、主に産官学連携を重視して取り組む。多様な形態でのインバウンド観光の急増に伴う各地域に対する需要の増大は、人材育成の必要性と併せ、喫緊の課題である。
リーダー	八島 雄士
サブリーダー	竹林 明
メンバー	Adam Doering、木川 剛志、出口 竜也、永井 隼人、廣岡 裕一、藤田 武弘

3.2 研究活動

3.2.1 研究員一覧

CTR研究員は、学内教員を中心に構成されるCTR研究員、およびCTR客員研究員、「客員特別研究員(Visiting Senior Fellow)」および「客員一般研究員(Visiting Junior Fellow)」からなる。

3.2.1.1 CTR研究員

(※)は国際観光学研究センター専任研究員(2016年10月1日現在)

Abhik Chakraborty*	国際観光学研究センター講師
Adam Doering*	国際観光学研究センター准教授
Thomas Hinch	和歌山大学特別主幹教授、アルバータ大学教授
Amnaj Khaokhrueamuang*	国際観光学研究センター講師
Anna Leask	和歌山大学特別主幹教授、エディンバラ・ネピア大学教授
Graham Miller	国際観光学研究センター副センター長、和歌山大学特別主幹教授、サリー大学教授
Brent W. Ritchie	和歌山大学特別主幹教授、クイーンズランド大学教授
Richard Sharpley	国際観光学研究センター副センター長、和歌山大学特別主幹教授、セントラル・ランカシャー大学教授
Gordon J. Walker	和歌山大学特別主幹教授、アルバータ大学教授
秋山 演亮	協働教育センター(災害科学教育研究センター)教授
足立 基浩	経済学部教授
伊藤 央二	観光学部講師
植田 淳子	食農総合研究所特任助教
王 妙発	経済学部教授
大井 達雄	観光学部教授
大浦 由美	観光学部教授
大西 敏夫	経済学部教授
大橋 直義	教育学部准教授
尾久土 正巳	観光学部教授
小野 健吉	観光学部教授

海津 一郎	教育学部教授
加藤 久美	国際観光学研究センター副センター長、観光学部教授
神田 孝治	観光学部教授
木川 剛志	観光学部准教授
岸上 光克	地域活性化総合センター 准教授
北村 元成	観光学部教授
佐々木 壮太郎	観光学部教授
佐野 楓	観光学部准教授
澤田 知樹	観光学部准教授
竹田 明弘	観光学部准教授
竹鼻 圭子	観光学部教授
竹林 明	観光学部教授
竹林 浩志	観光学部准教授
辻 和良	食農総合研究所特任教授
辻本 勝久	経済学部教授
出口 竜也	観光学部教授
永井 隼人*	国際観光学研究センター講師
中串 孝志	観光学部准教授
永瀬 節治	観光学部准教授
東 悦子	紀州経済史文化史研究所長、観光学部教授
廣岡 裕一	観光学部教授
藤田 武弘	国際観光学研究センターセンター長、観光学部教授
堀田 祐三子	観光学部教授
宮部 真衣	システム工学部講師
八島 雄士	観光学部教授
山田 良治	国際観光学研究センター担当理事、観光学部教授
吉田 道代	観光学部教授
吉野 孝	システム工学部教授
吉村 旭輝	紀州経済史文化史研究所特任准教授
米山 龍介	観光学部教授

3.2.1.2 CTR客員特別研究員

CTR客員特別研究員は、国内外の大学教員または一定の研究経験を有するものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するもの、もしくはCTRを拠点として観光学研究を行う必要があるものとする。

敬称略(2016年11月1日現在)

Joseph Cheer	Associate Director, Australian & International Tourism Research Unit (AITRU), National Centre for Australian Studies (NCAS) Lecturer, Graduate Tourism Program, Faculty of Arts, Monash University (Australia)
Sheranne Fairley	Senior Lecturer, UQ Business School, Tourism Cluster, The University of Queensland
Richard Philip Gonzalo	フィリピン大学アジアツーリズム研究所所長 助教授
Carl Lindh	In Edit Mode Press (出版社) 代表、サウンドアーティスト
Brent Lovelock	Associate Professor, Department of Tourism Co-Director, Centre for Recreation Research, University of Otago (New Zealand)
Lynn Minnaert	Clinical Assistant professor, Tisch Center for Hospitality, Tourism, and Sports Management, New York University (USA)
Anna Thompson	Senior Lecturer, Department of Tourism / Co-Director, Centre for Recreation Research, University of Otago (New Zealand)
Tufan Turanli	トルコ海洋考古学研究所 (Institute of Nautical Archaeology) 所長、テキサス A&M 大学 海洋考古学研究所 研究員、串本町エルトゥールル号発掘プロジェクト 代表
Donna Weeks	武蔵野大学 国際政治学教授
荒井 経	東京藝術大学大学院美術研究科 准教授

岡田 美奈子	株式会社JTB総合研究所 コンサルティング事業部 営業企画部 研究員
小形 正嗣	関西テレビ放送株式会社
大貫 美鈴	スペースアクセス株式会社 代表取締役 宇宙ビジネスコンサルタント、スペースフロンティアファンデーション アジアリエゾン代表
柏木 翔	慶應義塾大学院 政策・メディア研究科 後期博士課程、東海大学福岡短期大学 国際文化学科 特任講師、九州産業大学商学部観光産業科 非常勤講師
櫻井 敬人	太地町歴史資料室学芸員、ニューベッドフォード捕鯨博物館顧問学芸員 (USA)
笹森 琴絵	JWDC (Japan Whale and Dolphin Watching Council) 代表、さかまた組代表、ネーチャーガイド、写真家、酪農学園大学客員研究員
佐藤 芳文	国会図書館
杉山 幹夫	株式会社スマップ代表取締役、教育と産業研究所所長、Local wiki ジャパン編集長、Code for Sapporo 顧問
蘇 哲仁	Full Professor, Fu Jen Catholic University, Department of Restaurant, Hotel and Institutional Management (Taipei, Taiwan)
野津 直樹	株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業部 マネージャー
森 正人	三重大学人文学部 准教授
山口 志郎	流通科学大学 人間社会学部 専任講師
山崎 直子	元JAXA宇宙飛行士、宇宙政策委員会委員(内閣府)
吉住 千亜紀	飯田市美術博物館
吉田 潔	株式会社地域マーケティング研究所代表取締役、西日本工業大学、福岡大学非常勤講師

3.2.1.3 CTR客員一般研究員

CTR客員一般研究員は、原則として、国内外の博士後期課程学生もしくは博士後期課程を修了後引き続き研究を行うものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するもの、もしくはCTRを拠点として観光学研究を行う必要があるものとする。博士後期課程学生については、在籍大学の指導教員の許可を受ける必要がある。なお、当該研究により単位を付与することはない。

敬称略(2016年11月1日現在)

明山 文代	和歌山大学観光学研究科修士課程修了、元中学校教員
河野 慎太郎	アルバータ大学体育・レクリエーション学部 博士後期課程
長坂 契那	福岡女学院大学非常勤講師

3.2.2 研究員別業績一覧

研究員ごとの研究業績は以下の通り。

(2017年2月現在)

Chakraborty, Abhik

(学会発表)

- Chakraborty, A.** (2016). Analyzing the Relationships between Disturbance, Landscape-level Change, Land-formation Mechanisms and Biota in Complex Socioecological Systems. Paper presented at International Session: Complexity, Change and Adaptive Management of Socioecological Landscapes: An Earth System Perspective (22 May). Japan Geoscience Union Conference (日本地球惑星連合大会, 22-26 May 2016, Makuhari Messe, Chiba).
- Chakraborty, A.** (2016). IGGP and Geoscience for Future Society: Exploring a Framework for Managing Earth Heritage. Paper presented at Special International Session IGGP of the Future (on the International Geoscience and Geoparks Programme of UNESCO) (24 May). Japan Geoscience Union Conference (日本地球惑星連合大会, 22-26 May 2016, Makuhari Messe, Chiba).

- Chakraborty, A.** (2016). Alpine Tourism and Place-making in Contemporary Japan. Paper presented at European Association for Japanese Studies Conference (24 and 25, Sept, 2016, Kobe University).
- Chakraborty, A.** (2016). 「複雑適応系の視点から社会生態系とその守り手としてサステイナブルツーリズムの分析」シンポジウム：社会生態系の複合性の分析と持続可能な資源管理のあり方. 日本地理学会秋季大会. 仙台、東北大学。2016年9月30日～10月2
- Chakraborty, A.** (2016). Challenges and Potential of Sustainable Ecotourism: Case Studies from Shiretoko Peninsula and Shirakami Mountain World Heritage Sites in Japan. 山口大学観光政策Informix学会：山口、山口大学。2017年1月20～21日

Doering, Adam

(論文)

- Hinch, T., Higham, J., & **Doering, A.** (accepted for publication). Sport, tourism and identity: Japan, rugby union and the transcultural maul. In C. Acton & D. Hassan (Eds.), Sport and Contested Identity. London: Routledge.
- Doering, A.** (accepted for publication, 2017). Mobilizing stoke: A genealogy of surf tourism development in Miyazaki, Japan. Tourism Planning and Development (Japan special issue).
- Spector, S., Higham, J.E.S., & **Doering, A.** (accepted for publication, 2017). Beyond the biosphere: Tourism outer space, and sustainability. Travel Recreation Research.
- Doering, A.,** & Zhang, J. (accepted for publication, 2017). Critical Tourism Studies and The World: On sense, praxis and creation. Tourism Analysis (Selected for special issue on Critical Tourism Studies).
- Doering, A.,** & Duncan, T. (2016). The mobilities paradigm for tourism studies and “beyond”: A polemic. Tourism Analysis, 21(2), pp. 47-59.
- Doering, A.** (2016). Freedom and Belonging Up in the Air: Reconsidering the Travel Ideal with Jean-Luc Nancy. In G. Blackwood & A. McGregor (Eds.), Motion pictures: travel ideals in film (pp. 109-134). Switzerland: Peter Lang.

(学会発表)

- Nagai, H., **Doering, A.**, & Yashima, Y. (2017). The early emergence of the Japanese DMO: preliminary insights from Miyazaki, Japan. Paper presented at CAUTHE Conference, University of Otago, New Zealand, February 7-10.
- Doering, A.**, Tucker, H., & Kato, K. (2017). Loss, hope and World Heritage: Narratives of endings and beginnings along the Kumano Kodo Pilgrimage Trail. Paper presented at CAUTHE Conference, University of Otago, New Zealand, February 7-10.
- Doering, A.** (2017). Surf City Miyazaki: The historical production of surf tourism development in rural Japan. Paper presented at CAUTHE Conference, University of Otago, New Zealand, February 7-10.
- Doering, A.** (2016). Mobilising stoke: Origins, transformations, and futures of Japanese surf culture and seascape. Paper presented at Animating Places: Making Destinations Come Alive through Research, Travel and Tourism Research Association (TTRA) Canada Chapter Conference, Edmonton, Alberta, September 28-30.

Fairley, Sheranne

(学会発表)

- Fairly, S.**, Yamaguchi, S., & Ito, E. (2016, November). Understanding Japanese conceptualisations of volunteering. Paper presented at the Sport Management Association of Australia and New Zealand (SMAANZ) 2016 Conference, Auckland University of Technology, New Zealand.

Hinch, Thomas

(論文)

- Hinch, T.**, & Ito, E. (in press). Sustainable sport tourism in Japan. *Tourism Planning and Development*.

(著書)

- Hinch, T.**, Higham, J. & Doering, A. (in press). Sport, tourism and identity: Japan, rugby union and the transcultural maul. In C. Acton & D. Hassan (Eds.), *Sport and Contested Identity*. London: Routledge.

(学会発表)

- Hinch, T. (2016, September). Comprehensive review of sport tourism in Japan: 1990 to present – preliminary findings. Paper presented at Animating Places: Making Destinations Come Alive through Research, Travel and Tourism Research Association (TTRA) Canada Chapter Conference, Edmonton, Alberta.

Khaokhrueamuang, Amnaj

(著書)

- Khaokhrueamuang, A. (2017)「タイのデルタにおける自然保全とエコツーリズム」矢ヶ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明『シリーズ地誌トピックス「第2巻ローカリゼーションー地域へのこだわりー」』朝倉書店(予定)

(研究発表)

- Khaokhrueamuang, A. (2016). Food Tourism Development Based on Sufficiency Economy Agriculture in Chom Chaeng Village: Conceptualizing Thai Cuisine with the Japanese Dietary. Paper presented at the International Conference on Emerging Tourism in the Changing World, 12-13 November 2016, Chiang Mai, Thailand.
- Khaokhrueamuang, A. (2016). The Agricultural Heritage System of Orchard Based on the Concept of Satoyama and Sufficiency Economy Agriculture: Green Tourism Perspectives for Japan and Thailand. Paper presented at the International Conference of Multidisciplinary Approaches on UN Sustainable Development Goals (UNSDGs) (Session: Hospitality and Tourism Management), 28-29 December 2016, Bangkok, Thailand.
- Khaokhrueamuang, A. (2016). The Agricultural Heritage System of Orchard Based on the Concept of Satoyama and Sufficiency Economy Agriculture: Green Tourism Perspectives for Japan and Thailand. Paper presented at 山口大学観光政策Informix学会:山口、山口大学。2017年1月20～21日
- Khaokhrueamuang, A. & Choochat, C. (2017). Aspiring Chiang Mai World Heritage City, Thailand. セミナー:世界遺産の順応的ガバナンスとその守り手としての サステナブル・ツーリズム 和歌山大学 2017年 2月23日
- Khaokhrueamuang, A. (2017). Wakayama in the Perception of Thai Tourists: Opportunities and Challenges. CTR Seminar, 2 March 2017, Wakayama University.

Ritchie, Brent W.

(論文)

- Nagai, H., **Ritchie, B. W.**, & Sano, K. (2016). Natural disasters and tourism: A review of major events in Japan from 1995 to 2014. In M. Li, A. Tham, C. M. Paris, & T. T. Liu (Eds.), *Pushing the boundaries: Driving tourism innovation & creativity through research: Proceedings of the 4th Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter (TTRA-APac) Annual Conference*, Dubai, United Arab Emirates (pp. 60-63).
- Sano, K., Nagai, H., & **Ritchie, B. W.** (in press). Understanding tourists' information search behavior as a risk reduction strategy: The case of international tourists in Japan. *Proceedings of the International Marketing Trends Conference 2017*, Madrid, Spain .(Accepted)

Walker, Gordon J.

(論文)

- Ito, E., & **Walker, G. J.** (in press). Relationships among self-construal, control, and positive affect in Japanese undergraduate students' leisure experience. *World Leisure Journal*. Advance online publication.
- Ito, E., & **Walker, G. J.** (2016). Cultural commonality and specificity in Japanese and Euro-Canadian undergraduate students' leisure experiences: An exploratory study on control and positive affect. *Leisure Sciences*, 38(3), 249-267.
- Ito, E., **Walker, G. J.**, Liu, H., & Mitas, O. (in press). A cross-cultural/national study of Canadian, Chinese, and Japanese university students' leisure satisfaction and subjective well-being. *Leisure Sciences*. Advance online publication.
- 伊藤央二, 山口志郎, 岡安功, 北村薫, **Walker G. J.** (2016). 青年の野外レクリエーションの参加動機と阻害要因が野外レクリエーション参加に与える影響: 日本とカナダの文化的類似・相違点の比較検討. *体育学研究*, 61, 11-27.

(学会発表)

- Kono, S., & **Walker, G. J.** (2016, October). Experiencing leisure for an engaged life among college students. Paper presented at the 2016 National Recreation and Parks Association Research Sessions.

- Walker, G. J. (2016, September). Kumano Kodo research project: Proposed theoretical framework. Paper presented at Animating Places: Making Destinations Come Alive through Research, Travel and Tourism Research Association (TTRA) Canada Chapter Conference, Edmonton, Alberta.

伊藤 央二

(論文)

- Hinch, T., & Ito, E. (in press). Sustainable sport tourism in Japan. *Tourism Planning and Development*.
- Ito, E., & Walker, G. J. (in press). Relationships among self-construal, control, and positive affect in Japanese undergraduate students' leisure experience. *World Leisure Journal*. Advance online publication.
- Ito, E., & Walker, G. J. (2016). Cultural commonality and specificity in Japanese and Euro-Canadian undergraduate students' leisure experiences: An exploratory study on control and positive affect. *Leisure Sciences*, 38(3), 249-267.
- Ito, E., Walker, G. J., Liu, H., & Mitas, O. (in press). A cross-cultural/national study of Canadian, Chinese, and Japanese university students' leisure satisfaction and subjective well-being. *Leisure Sciences*. Advance online publication.
- 伊藤央二, 山口志郎, 岡安功, 北村薫, Walker G. J. (2016). 青年の野外レクリエーションの参加動機と阻害要因が野外レクリエーション参加に与える影響: 日本とカナダの文化的類似・相違点の比較検討. *体育学研究*, 61, 11-27.

(学会発表)

- Fairly, S., Yamaguchi, S., & Ito, E. (2016, November). Understanding Japanese conceptualisations of volunteering. Paper presented at the Sport Management Association of Australia and New Zealand (SMAANZ) 2016 Conference, Auckland University of Technology, New Zealand.
- Ito, E. (2016, September). Tourism research in Japan: Wakayama University's Center for Tourism Research. Paper presented at Animating Places: Making Destinations Come Alive through Research, Travel and Tourism Research Association (TTRA) Canada Chapter Conference, Edmonton, Alberta.
- 伊藤央二 (2016年11月). 日本, 中国, カナダにおける余暇・レジャー活動の種目別参加頻度と幸福感に関する文化比較研究. 日本生涯スポーツ学会第18回大会, 東京都江東区豊洲シビックセンター.

- 伊藤愛・佐竹真由・伊藤央二 (2016年11月). 北山村観光筏下り参加者における観光地の情報収集手段と参加動機に関する研究. 日本生涯スポーツ学会第18回大会, 東京都江東区豊洲シビックセンター.
- 神野あきら・砂田悠花・八木悠太・伊藤央二 (2016年11月). 野外レクリエーション活動の関与度と地域愛着に関する研究: 和歌山県東牟婁郡北山村の観光筏下りを対象として. 日本生涯スポーツ学会第18回大会, 東京都江東区豊洲シビックセンター.

植田 淳子

(論文)

- 辻和良・植田淳子・藤田武弘「農山村地域への移住者の実態と受入側の課題—和歌山県内受入協議会を通じたアンケートをもとに—」農業市場学会『農業市場研究』第25巻第4号(受理済み、掲載予定)、2017年3月。

王 妙堯

(論文)

- 王 妙堯 (2016)「都市与文明定义小议」『“城市与文明”学术研讨会论文集』上海古籍出版社
- 王 妙堯 (2016)「齐家文化聚落規模試探」『2015・中国広河齐家文化与華夏文明国際研究会論文集』(pp.41-66)文物出版社

大井 達雄

(論文)

- 大井達雄「観光地域における観光需要の季節変動の要因分析—ジニ係数および要因分解手法に基づく実証研究—」『日本政策金融公庫論集』第33号(2016年11月), pp.39-59.
- 大井達雄, 青木義英「六本木アートナイト2015が及ぼす経済波及効果の計測—観光消費額を中心として—」『観光学』16号(2017年3月刊行予定)
- 大井達雄, 野津直樹「観光とビッグデータ」『ESTRELA』2016年6月号, pp.14-19

(著書)

- 大井達雄「8. 観光統計」, 大橋昭一・山田良治・神田孝治『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版, 2016年12月, pp.56-63.
- 大井達雄「持家・借家の住居費負担」, 日本住宅会議編『深化する居住の危機 住宅白書 2014-2016』ドメス出版, 2016年12月, pp.142-145.

(研究発表)

- 大井達雄, 野津直樹「和歌山県におけるインバウンド観光客の周遊行動分析～観光統計とビッグデータの比較～」第13回観光情報学会全国大会(和歌山県民文化会館), 2016年7月2日
- 大井達雄, 野津直樹「人口減少社会における観光データの利活用に関する考察」第60回経済統計学会全国研究大会(鹿児島大学), 2016年9月12日
- 大井達雄「ディスティネーションマーケティング時代のツーリズム情報の収集と活用」日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部シンポジウム(常翔学園大阪センター), 2016年11月5日
- 大井達雄, 椿広計「平成18年社会生活基本調査による旅行・行楽行動の要因分析」経済統計学会関西支部11月例会(神戸大学), 2016年11月19日

大浦 由美

(著書)

- 大浦由美(2016)「観光と地域再生」, 大橋昭一, 山田良治, 神田孝治編著『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版, 94-100pp.
- 大浦由美(2016)「森林とレクリエーション」, 大橋昭一, 山田良治, 神田孝治編著『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版, 129-135pp.

(学会・シンポジウム報告)

- 大浦由美(2016)「学生ボランティア「棚田ふぁむ」の取り組み」2016年棚田学会シンポジウム「棚田保全に多くの大学生を参画させるには？」事例報告(2016年9月2日, 東京)

大橋 直義

(論文)

- 大橋直義(2017)「伝記への執心―『扶桑略記』の歴史叙述、一隅」共同研究・歴史叙述と文学編『研究成果報告 歴史叙述と文学』国文学研究資料館[予定]
- 大橋直義(2017)「仮構の巡礼―延慶本『平家物語』第五末(巻十)平維盛粉河寺巡礼考」大橋直義編『根来と延慶本―紀州地域の寺院空間と書物・言説』勉誠出版[予定]

(著書)

- 延慶本注釈の会編(2016)『延慶本平家物語全注釈第五末(巻十)』汲古書院(共著)
- 大橋直義編(2017)『根来と延慶本―紀州地域の寺院空間と書物・言説』勉誠出版[予定]

(学会発表)

- 大橋直義「法華寺縁起考」(関西軍記物語研究会、大谷大学、京都、2016年4月17日)

■大橋直義「粉河寺縁起にみる聖地の形成と展開―「童男行者」をめぐって」(紀州地域学共同研究会第3回研究集会公開シンポジウム「信仰空間・聖地の創出」パネリスト兼司会、和歌山県立博物館、2016年8月28日)

■大橋直義「花山院長親(耕雲明魏)と紀州地域の寺社縁起―靈巖寺縁起・衣奈八幡宮縁起をめぐって」(和歌山大学紀州経済史文化史研究所2016年度公開シンポジウム「紀州地域の寺社縁起」、キャンパスイノベーションセンター東京、2016年11月26日)

(展覧会・展示)

■紀州経済史文化史研究所2016年度特別展「道成寺の縁起―伝承と実像」(紀州経済史文化史研究所展示室[附属図書館3階]、2016年11月8日―12月16日)(企画主担当)

(その他)

■大橋直義(2016)「2015年度仏教文学学会大会シンポジウム「戦争と鎮魂」―シンポジウム趣意」『仏教文学』41

■紀州経済史文化史研究所編(2016)『2016年度特別展 道成寺の縁起 伝承と実像』(特別展図録、分担執筆、担当:全体調整/第2章「紀伊半島と聖武王家の女性たち」pp.13-20/資料編・目録pp.28-39)

■和歌山大学紀州経済史文化史研究所2016年度公開研究会「ワークショップ&シンポジウム 和歌山大学の古文書と古典籍」(企画・司会)

■紀州経済史文化史研究所2016年度特別展「道成寺の縁起―伝承と実像」ギャラリートーク(2016.11.11および12.16 紀州経済史文化史研究所展示室[附属図書館3階])

小形 正嗣

■小形正嗣(企画・プロデュース・演出・脚本)・尾久土正己(監修):動画コンテンツ「宙ガール～素敵な星空パーティへのご招待」, <https://www.youtube.com/watch?v=U5Bdc3t9aFw>, (2016-08-08公開)

尾久土 正己

(学会発表)

■尾久土正己, 岡部葵, 小澤友彦, 野津直樹:高野山開創1200年祭におけるビッグデータとリアルデータの比較, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, p65-66, (2016-07-02).

■中串孝志, 八役奈央, 尾久土正己, お月見カフェイベント -和歌山大学観光学部での取り組み-, 天文教育普及研究会近畿支部集会(於:京都教育大学), 2016.11

- 尾久土正己, 観光と宇宙: 和歌山大学観光学部の取り組み, 観光教育研究セミナー 2016 vol. 7 in 東京「観光からみた宇宙」(東京都港区), 和歌山大学国際観光学研究センター, 2016.12.17

(講演・展示・上映会)

- 尾久土正己・木川剛志、吉住千亜紀: 全編実写ドームドラマの製作について, 平成28年度全国プラネタリウム大会・釧路2016 (2016-06-06-08)
- 尾久土正己・木川剛志、吉住千亜紀: ドームドラマ I'm not alone, 平成28年度全国プラネタリウム大会・釧路2016 (2016-06-06-08)
- 尾久土正己・吉住千亜紀・裕間晴香小川勝久・菅井崇: 魚眼レンズによる全天周実写撮影について, 「ドーム映像制作ワークショップ」(2016-07-04)
- 小形正嗣(企画・プロデュース・演出・脚本)・尾久土正己(監修): 動画コンテンツ「宙ガール～素敵な星空パーティへのご招待」, <https://www.youtube.com/watch?v=U5Bdc3t9aFw>, (2016-08-08公開)
- 木川剛志(監督)・尾久土正己(撮影監督): 短編映画「替わり目」, 第9回商店街映画祭(松本映画祭プロジェクト)(2017-01-21上映)

小野 健吉

(論文)

- 小野健吉(2016)「日本庭園の歴史と文化—平成27年度日本造園学会賞受賞者業績要旨」『ランドスケープ研究』80(2):137-140.
- 小野健吉(2017)「歴史文化遺産及び歴史文化景観に関する行政の展開」『ランドスケープ研究』80(4):304-307.
- 小野健吉(2017)「江戸時代後期の観光資源としての京都の庭園」『観光資源としての庭園(1)』(pp.35-47) 科研費刊行物
- 小野健吉(2017)「東京都所管文化財庭園の観光を含めた活用の展望」『観光学』16:25-38[予定].

(著書)

- 小野健吉(2017)「安土桃山時代庭園の位置付けと意義」『庭園の歴史に関する研究会—織豊期から江戸時代初期の庭園』奈良文化財研究所[予定]
- 小野健吉(2017)「日本における発掘庭園(苑池)の復元整備」『南原実相寺苑池の復元(仮題)』仏教文化研究所(韓国)[予定]

海津 一郎

(論文)

- 宇民正・海津一郎・新谷和之・弓倉弘年(2017)「太田城水攻め研究の現在」『和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要』37: 17-31

(著書)

- 大橋直義編(2016)『道成寺の縁起 伝承と実像』和歌山大学紀州経済史文化史研究所(分担執筆)

加藤 久美

(論文)

- Kato, K., & Prozano, R. (in press). Spiritual (walking) tourism as a foundation for sustainable destination development - Kumano-kodo pilgrimage, Wakayama, Japan. *Journal of Tourism Management Perspectives*.
- Kato, K. (in press) Restoring spiritual resilience in post-disaster recovery in Fukushima, In Cheer, J. & Lew, A. (eds) *Tourism and Resilience*.
- Kato, K. (in press) Resilience and disaster reconstruction and resilience. *Tourism Planning & Development*.
- Kato, K. & Horita, Y. (in press) *Tourism research in Japan*. *Tourism Planning & Development*
- 加藤久美(2016)「観光とサステナビリティ」大橋昭一・山田良治・神田孝治編『ここからはじめる観光学』(ナカニシヤ出版), pp.180-187.

(学会発表)

- Kato, K. (2016) Restoring spiritual resilience in evacuated community of Fukushima. *Tourism Naturally* (2-5 October, 2016, Alghero, Italy)
- Kato, K. (2016). Tourism supporting alternative lifestyle: Fishing and tourism in Japan. *Tourism Naturally* (2-5 October, 2016, Alghero, Italy)
- Kato, K. (2016) Watching our whales. Development of whale watching tourism in Australia. *Australia 学会* (11 June, 2016, Wakayama University)
- Kato, K. (2017). Australia's tourism. *Australia Studies Association* (追手門学院大学、21 Jan, 2017)

- Doering, A., Tucker, H. & **Kato, K.** (2017). Loss, hope and World Heritage: Narratives of endings and beginnings along the Kumano Kodo Pilgrimage Trail. Paper presented at CAUTHE Conference, University of Otago, New Zealand, February 7-10.
- Kato, K.** (2017) Sustainable tourism & Community. Ecotourism Forum (18 February, 2017, Hiroshima)
- Kato, K.** (2017). Kumano world heritage and community. Sustainable Heritage Conservation Forum (23 February, 2017, Wakayama University)

神田 孝治

(論文)

- 神田孝治**(2017)「沖縄本島における墓地を対象とした観光の生産とその変容—移動に注目したダークツーリズムの考察」観光学評論5(1)[予定]

(著書)

- 大橋昭一・山田良治・**神田孝治**編『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版

(翻訳)

- アンソニー・エリオット&ジョン・アーリ(遠藤英樹監訳/**神田孝治**・鈴木涼太郎・高岡文章・山口誠・堀野正人・寺岡伸悟訳)(2016)『モバイル・ライブズ』ミネルヴァ書房(担当部分:**神田孝治**・第4章「グローバルズとモビリティーズ」pp.89-112)

(学会発表)

- 神田孝治**「沖縄本島における墓地を対象とした観光の生産とその変容—モビリティに注目したダークツーリズムの一考察」(観光学術学会第5会大会、立命館大学、京都、2016年7月9日)

木川 剛志

(論文)

- Kigawa, T.** (2016). The movie hackathon: An experimental even to produce community-based local movies. International Society for Tourism Research, 1(2): 97-100.
- Kigawa, T.** and Seo. K.W. (2017). Finding ideal model for compact cities of multipole network, Proceeding of Space Syntax 11th International Symposium.[予定]

(著書)

- 木川剛志(2016)「観光と地域プロデュース」大橋昭一・山田良治・神田孝治編著『ここからはじめる観光学』(pp.101-107)ナカニシヤ出版

(講演・展示・上映会)

- 木川剛志監督作品「死神」(第20回にいがたインディーズムービーフェスティバル上映、2016、第2回あわら湯けむり映画祭上映、2016)
- 木川剛志監督作品「替わり目」(第9回商店街映画祭上映、2016)[第9回商店街映画祭グランプリおよび第9回商店街映画祭串田監督賞]
- 尾久土正己・木川剛志、吉住千亜紀:全編実写ドームドラマの製作について,平成28年度全国プラネタリウム大会・釧路2016 (2016-06-06-08)
- 尾久土正己・木川剛志、吉住千亜紀:ドームドラマ I'm not alone,平成28年度全国プラネタリウム大会・釧路2016 (2016-06-06-08)

岸上 光克

(論文)

- 八島雄士,岸上光克,「社会的企業における業績評価の役割—農業法人株式会社のアクションリサーチ—」,『メルコ管理会計研究』,(査読審査中)

河野 慎太郎

(学会発表)

- Kono, S., & Walker, G. J. (2016, October). Experiencing leisure for an engaged life among college students. Paper presented at the 2016 National Recreation and Parks Association Research Sessions.

佐々木 壮太郎

(論文)

- 竹林明、佐々木壮太郎、竹田明弘編著『地域ブランド形成における住民の役割に関する研究』和歌山地域経済研究機構 研究成果27

佐野 楓

(論文)

- Nagai, H., Ritchie, B. W., & **Sano, K.** (2016). Natural disasters and tourism: A review of major events in Japan from 1995 to 2014. In M. Li, A. Tham, C. M. Paris, & T. T. Liu (Eds.), *Pushing the boundaries: Driving tourism innovation & creativity through research: Proceedings of the 4th Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter (TTRA-APac) Annual Conference, Dubai, United Arab Emirates* (pp. 60-63).
- Sano, K.**, Nagai, H., & Ritchie, B. W. (in press). Understanding tourists' information search behavior as a risk reduction strategy: The case of international tourists in Japan. *Proceedings of the International Marketing Trends Conference 2017, Madrid, Spain.*(Accepted)
- Sano, K.** “Does social media really enhance relationships with customers? Understanding the effects of SCRM in Japan’s tourism industry”, *Proceedings of 2016 International Conference of Asian Marketing Associations in Beijing*, 査読有, CD-ROM, pp.1-20, 2016年10月
- Sano, K.** “Investigating the role of attitudes towards social media marketing activities and the perceived value of using social media in organizing vacations”, *Proceedings of 2016 Global Marketing Conference at Hong Kong*, 査読有, CD-ROM, pp.1-6, 2016年7月
- Sano, K.**, “Why do they use social media to organize vacation trip? Explore the effect of attitude, benefit and incentive on tourists’ intention of using social media”, *Proceedings of Asia Pacific Tourism Association Annual Conference*, 査読有, pp.239–242, 2016年6月
- 佐野楓** 「ツーリズム2.0時代におけるソーシャルメディア商業化に関する理論的探索」『観光学』第16号, pp.49-60(平成29年3月出版予定)

(著書)

- 佐野楓**「観光マーケティング」, 大橋昭一・山田良治・神田孝治『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版, 2016年12月, pp.64-70

竹田 明弘

(論文)

- 竹林明、佐々木壮太郎、**竹田明弘**編著『地域ブランド形成における住民の役割に関する研究』和歌山地域経済研究機構 研究成果27

(学会発表)

- 竹田明弘**「期待水準からみた看護師の職務満足」第54回 日本医療病院管理学会

(その他)

- 竹田明弘**(2016)「看護師の職場期待からみた職務満足分析について」神戸医療経営学研究会

竹鼻 圭子

(論文)

- 竹鼻圭子**(2017)「Japan and the Culture of the Four Seasons “Introduction: Secondary Nature, Climate, and Landscape”の翻訳とノート」『観光学』16(1) [予定]

(著書)

- 竹鼻圭子**(2016)「観光と翻訳」『ここからはじめる観光学』(pp.195-201)ナカニシヤ出版(分担執筆)

(翻訳)

- Takehana, K.**(2016) Seeking the Missing Link to Rikyu. 英宝社(千宗屋著(2010)『茶—利休と今をつなぐ』新潮社の英語翻訳)

(報告書)

- Takehana, K.**(2016). Cultural translation and tourism. Developing an innovative model for the advancement and internationalization of tourism research, Project report 2015. (pp.201-208). Wakayama University. (和歌山大学観光学部大学院観光学研究科『観光研究の高度化・国際化推進による次世代型観光モデル創出プロジェクト2015年度報告書』)

(講演・講座)

- 裏千家淡交会松樹会「大阪府立大学茶道部合同茶道研修会」講師(2016年9月3-4日)
- 和歌山大学体験学習(地域和歌山市住民対象)「日本文化・茶会体験 日本文化研究なでしこ」自主演習の学生の指導(2016年11月13日)

竹林 明

(論文)

- 竹林明、佐々木壮太郎、竹田明弘編著『地域ブランド形成における住民の役割に関する研究』和歌山地域経済研究機構 研究成果27

(その他)

- 竹林明他(2016)『地域ブランド形成における住民の役割に関する研究』地域ブランド研究会報告書(第5章 近畿圏における住民意識調査の比較 執筆担当 pp.43-53)

竹林 浩志

(論文)

- 大橋昭一/竹林浩志「現代の事業経営における人権問題—国連の人権擁護プログラムを中心に—」、和歌山大学経済学会『経済理論』第385号、2016年9月

辻 和良

(論文)

- 辻和良・植田淳子・藤田武弘(2017)「農山村地域への移住者の実態と受入側の課題」、農業市場研究25-4(受理済/2017.3発行予定)、日本農業市場学会、査読あり

辻本 勝久

(論文)

- 辻本勝久, 南北方向の新幹線整備と関西国際空港(仮), KANSAI空港レビュー, 459, 2017/2
- 西川一弘・辻本勝久・照本清峰, 鉄軌道における異常発生時対応・災害対策に関する一考察 - 駅乗務員の力量形成と住民連携を中心として-, 交通学研究, 59, 2017/3(査読中)

(著書)

- 辻本勝久, 『大学的和歌山ガイド』, 章番号未定, 「多彩な電車でめぐる貴志川線と沿線の神々」, 昭和堂, 2016年度中発行予定

出口 竜也

(著書)

- 出口竜也(2016)「観光とコンテンツ」大橋昭一・山田良治・神田孝治編『ここからはじめる観光学 楽しから知的な好奇心へ』ナカニシヤ出版pp.78-84.

永井 隼人

(論文)

- Nagai, H., Ritchie, B. W., & Sano, K. (2016). Natural disasters and tourism: A review of major events in Japan from 1995 to 2014. In M. Li, A. Tham, C. M. Paris, & T. T. Liu (Eds.), Pushing the boundaries: Driving tourism innovation & creativity through research: Proceedings of the 4th Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter (TTRA-APac) Annual Conference, Dubai, United Arab Emirates (pp. 60-63).
- Sano, K., Nagai, H., & Ritchie, B. W. (in press). Understanding tourists' information search behavior as a risk reduction strategy: The case of international tourists in Japan. Proceedings of the International Marketing Trends Conference 2017, Madrid, Spain.(Accepted)
- Nagai, H., Doering, A., & Yashima, Y. (2017). The early emergence of the Japanese DMO: preliminary insights from Miyazaki, Japan. Paper presented at CAUTHE Conference, University of Otago, New Zealand, February 7-10.

中串 孝志

(著書)

- 中串孝志, ジオツーリズム, 大橋昭一・山田良治・神田孝治編『ここからはじめる観光学』(ナカニシヤ出版), pp.144-150.
- 中串孝志編, 観光教育研究セミナー 2016 vol. 7「観光からみた宇宙」集録, 和歌山大学国際観光学研究センター, 2017.03(発行予定)

(学会発表)

- 中串孝志, 小野田裕己, 野津直樹, 小澤友彦:交通ビッグデータとTwitter検索結果が示す国内のジオパークの実態, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, p67-68, (2016-07-02).
- 中串孝志, 観光情報学的アプローチとその応用, 第2回科学技術教養論研究会全国大会, 三重県四日市市, A01, 2016.10.29-30 (2016-10-29)
- 中串孝志, 八役奈央, 尾久土正己, お月見カフェイベント -和歌山大学観光学部での取り組み-, 天文教育普及研究会近畿支部集会(於:京都教育大学), 2016.11
- 中串孝志, 小澤友彦, 野津直樹, データ検索から見えるジオパークの認識, Japan Geoscience Union Meeting 2016, May 22-26 2016 at Makuhari, Chiba, Japan, MIS07-07, (2016-05)

野津 直樹

(学会発表)

- 中串孝志, 小野田裕己, **野津直樹**, 小澤友彦:交通ビッグデータとTwitter検索結果が示す国内のジオパークの実態, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, p67-68, (2016-07-02).
- 中串孝志, 小澤友彦, **野津直樹**, データ検索から見えるジオパークの認識, Japan Geoscience Union Meeting 2016, May 22-26 2016 at Makuhari, Chiba, Japan, MIS07-07, (2016-05)
- 大井達雄, **野津直樹**「和歌山県におけるインバウンド観光客の周遊行動分析～観光統計とビッグデータの比較～」第13回観光情報学会全国大会(和歌山県民文化会館), 2016年7月2日
- 大井達雄, **野津直樹**「人口減少社会における観光データの利活用に関する考察」第60回経済統計学会全国研究大会(鹿児島大学), 2016年9月12日
- 尾久土正己, 岡部葵, 小澤友彦, **野津直樹**:高野山開創1200年祭におけるビッグデータとリアルデータの比較, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, p65-66, (2016-07-02).
- 吉野 孝, **野津直樹**:人はいつ経路検索をするのか?:経路検索条件データを用いた人の経路検索の特性分析, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.7-8(2016-07-01).
- 辻本拓真, 吉野 孝, **野津直樹**:交差点データを利用した原付向けルート検索手法の提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.9-10(2016-07-01).
- 今村美聡, 吉野 孝, **野津直樹**:運転初心者のための観光地推薦および経路設計手法の提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.11-12(2016-07-01).
- 榎田宗丈, 吉野 孝, **野津直樹**:交差点データを利用した安全な徒歩での帰り道検索システムの提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.71-72(2016-07-02).
- 谷口翔吾, 吉野 孝, **野津直樹**:和歌山県におけるアニメの聖地巡礼を目的とした観光形態の提案 -観光客の滞在地データを利用して-, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.73-74(2016-07-02).
- 渡邊小百合, 榎田宗丈, 吉野 孝, **野津直樹**:交差点獲得ゲームシステムによる観光行動促進手法の提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.75-76(2016-07-02).
- 大井達雄, **野津直樹**「観光とビッグデータ」『ESTRELA』2016年6月号, pp.14-19

東 悦子

(著書)

- 東悦子(2016)「渡航案内」にみる英語学習・異文化学習」根川幸男・井上章一編著『越境と連動の日系移民教育史 複数文化体験の視座』(pp.71-90) ミネルヴァ書房
- 東悦子(2016)「観光と異文化間コミュニケーション」大橋昭一・山田良治・神田孝治編『ここからはじめる観光学 楽しさから知的好奇心へ』(pp.202-208) ナカニシヤ出版

廣岡 裕一

(論文)

- 廣岡裕一「旅館業の法制度と民泊」『地銀協月報』671 (2016/5)8-13
- 廣岡裕一「訪日外国人の増加と民泊問題—旅行者のニーズと制度のマッチング—」Economic Cooperation Forum of CEO in Northeast Asia, 102-129
- 廣岡裕一「2016 年度宿泊サービスと宿泊契約—宿泊契約締結の拒否の制限に着目した考察—」『政策科学』24-4(2017/3), pp.81-98

(著書)

- 廣岡裕一「旅行産業」, 大橋昭一・山田良治・神田孝治『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版, 2016年12月, pp.35-41

(学会発表)

- 廣岡裕一The Euro-Asia Tourism Studies Association (EATSA) Inaugural Conference “Current situation and issues of legislation regarding accommodation in Japan” EATSA – Euro-Asia Tourism Studies Association, LISBON (University of Lisbon),Portugal

藤田 武弘

(論文)

- 辻和良・植田淳子・藤田武弘「農山村地域への移住者の実態と受入側の課題—和歌山県内受入協議会を通じたアンケートをもとに—」農業市場学会『農業市場研究』第25巻第4号(受理済み、掲載予定)、2017年3月。

(著書)

- 藤田武弘(2016)「都市農村交流と観光」大橋昭一, 山田良治, 神田孝治編著『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版、第17章所収、pp.122-128

(学会発表)

- 貫田理紗・藤井至・藤田武弘(2016)「農業・農村の担い手確保からみた都市農村交流活動の役割と意義」、日本農業市場学会2016年度大会個別報告、徳島大学

堀田 祐三子

(著書)

- 堀田祐三子(2016)「アーバンツーリズム」大橋昭一, 山田良治, 神田孝治編著『ここからはじめる観光学』所収(151-157)ナカニシヤ出版
- 堀田祐三子(2016)「観光まちづくり」大橋昭一, 山田良治, 神田孝治編著『ここからはじめる観光学』所収(108-114)ナカニシヤ出版

八島 雄士

(論文)

- 八島雄士「社会的企業における業績評価の役割—農業法人株式会社のアクションリサーチ—」, 『メルコ管理会計研究』, 共著:八島雄士, 岸上光克(和歌山大学食農総合研究所), 査読審査中
- Nagai, H., Doering, A., & **Yashima, Y.** (2017). The early emergence of the Japanese DMO: preliminary insights from Miyazaki, Japan. Paper presented at CAUTHE Conference, University of Otago, New Zealand, February 7-10.

(著書)

- 八島雄士『セルフ・イノベーションの管理会計—社会変革に対応した業績評価のあり方』, 中央経済社, 単著, H29年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費) 学術図書申請中

山口 志郎

(論文)

- 伊藤央二, **山口志郎**, 岡安功, 北村薫, Walker G. J. (2016). 青年の野外レクリエーションの参加動機と阻害要因が野外レクリエーション参加に与える影響:日本とカナダの文化的類似・相違点の比較検討. 体育学研究, 61, 11-27.

(学会発表)

- Fairly, S., **Yamaguchi, S.**, & Ito, E. (2016, November). Understanding Japanese conceptualisations of volunteering. Paper presented at the Sport Management Association of Australia and New Zealand (SMAANZ) 2016 Conference, Auckland University of Technology, New Zealand.

山田 良治

(著書)

- 大橋昭一・山田良治・神田孝治編『ここからはじめる観光学』ナカニシヤ出版

吉住 千亜紀

(学会発表)

- 尾久土正己・木川剛志、吉住千亜紀：全編実写ドームドラマの製作について，平成28年度全国プラネタリウム大会・釧路2016 (2016-06-06-08)
- 尾久土正己・木川剛志、吉住千亜紀：ドームドラマ I'm not alone, 平成28年度全国プラネタリウム大会・釧路2016 (2016-06-06-08)
- 尾久土正己・吉住千亜紀・碓間晴香小川勝久・菅井崇：魚眼レンズによる全天周実写撮影について，「ドーム映像制作ワークショップ」(2016-07-04)

吉田 道代

(著書)

- 吉田道代(2016)「観光とジェンダー」大橋昭一・山田良治・神田孝治編『ここからはじめる観光学—楽しさから知的好奇心へ』(pp.188-194)ナカニシヤ
- 吉田道代(2016)「移民(エスニックコミュニティ)」、「日雇い労働者集住地における危機と再生」、「同性愛者の歓楽街」藤塚吉宏・高柳長直編『図説 日本の都市問題』(pp.40-41, 84-85, 88-89)古今書院

吉野 孝

(学会発表)

- 谷口翔吾, 吉野孝, 本塚智貴：マイクロブログを用いたジオツアー支援システムの開発, 情報処理学会, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2016)シンポジウム, pp. 24-31 (2016-07-06) .
- 渡邊小百合, 吉野孝：観光地間の類似性を基にした向上点発見のための観光情報可視化システム, 情報処理学会, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2016)シンポジウム, pp. 1357-1362(2016-07-08) .
- 渡邊小百合, 吉野孝：観光情報可視化システムのための観光地名無しツイートからの観光情報抽出手法の提案, グループウェアとネットワークサービス, 2017-GN-100(47),1-6 (2017-01-13).
- 谷口翔吾, 榎田宗丈, 吉野孝：ジオサイトの知名度向上を目的としたジオツアー支援システムの開発と評価, グループウェアとネットワークサービスワークショップ2016(GN Workshop 2016) pp.1-8 (2016-11-19).

- 吉野孝, 野津直樹:人はいつ経路検索をするのか? :経路検索条件データを用いた人の経路検索の特性分析, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.7-8(2016-07-01).
- 辻本拓真, 吉野孝, 野津直樹:交差点データを利用した原付向けルート検索手法の提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.9-10(2016-07-01).
- 今村美聡, 吉野孝, 野津直樹:運転初心者のための観光地推薦および経路設計手法の提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.11-12(2016-07-01).
- 山本里美, 福島 拓, 吉野孝:外国人観光客向けマイナーな観光地情報収集におけるクラウドソーシング利用手法の評価, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.15-16(2016-07-01).
- 谷口翔吾, 吉野孝:ガイド説明理解度向上と知名度向上を目的としたジオツアー支援システムの開発と評価, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.17-18(2016-07-01).
- 渡邊小百合, 吉野孝:観光地間の類似性を基にした観光情報可視化システム, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.41-12(2016-07-01).
- 榎田宗丈, 吉野孝, 野津直樹:交差点データを利用した安全な徒歩での帰り道検索システムの提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.71-72(2016-07-02).
- 谷口翔吾, 吉野孝, 野津直樹:和歌山県におけるアニメの聖地巡礼を目的とした観光形態の提案-観光客の滞在地データを利用して-, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.73-74(2016-07-02).
- 渡邊小百合, 榎田宗丈, 吉野孝, 野津直樹:交差点獲得ゲームシステムによる観光行動促進手法の提案, 第13回観光情報学会全国大会講演予稿集, pp.75-76(2016-07-02).
- 谷口 翔吾, 吉野孝:ジオサイトの知名度向上を目的としたジオツアー支援システムの開発, 2016年度 情報処理学会関西支部 支部大会 講演論文集, C-09, pp.1-3 (2016-09-26).
- 渡邊 小百合, 吉野孝:位置情報付きツイートと観光地名入りツイートをを用いた位置情報無しツイートからの観光情報抽出手法の提案, 2016年度 情報処理学会関西支部 支部大会 講演論文集, G-15, pp.1-3 (2016-09-26).
- Taniguchi, S. & Yoshino, T. (2016). Development of a GeoTour Support System Using a Microblog, Proceedings of 8th International Conference CollabTech 2016, Springer CCIS 647, pp. 220-230 (2016-09).

吉村 旭輝

(論文)

- 吉村旭輝(2016)「紀州研所蔵の師範学校関係資料」『全国大学史資料協議会 西日本部会会報』

(著書)

- 和歌山大学紀州経済史文化史研究所編(2016)『道成寺の縁起 伝承と実像』和歌山大学紀州経済史文化史研究所(共著)
- 和歌山大学紀州経済史文化史研究所編(2017)『増補・改訂版 みる・きく・たのしむ和歌祭和歌山大学紀州経済史文化史研究所』(共著)[予定]
- 吉村旭輝(2017)「徳川頼宣と天海による東照社(宮)祭礼の創始-東照社小祥祭と和歌祭りを中心として-」玉津島保存会編『文化財担当者と学ぶ名勝和歌の浦講座』和泉書院[予定]
- 吉村旭輝(2017)「東照宮祭礼の創始と芸能-和歌祭唐船・唐人を中心として」藤田和史・東悦子編『わかやまを学ぶ 紀伊半島から考える現在 紀州研フィールドミュージアム叢書④』和歌山大学紀州経済史文化史研究所[予定]

(講演・講座)

- 吉村旭輝「第6回 だんじりや太鼓台の都市祭礼からみる大阪の文化圏」(立命館大学主催・2016年度 立命館大阪プロムナードセミナー 大阪・京都文化講座前期「京都・大阪の「祭礼」再考-その祝祭的 非日常的イベントはどのように変貌をとげてきたか」、立命館大阪梅田キャンパス、大阪、2016年6月20日)
- 吉村旭輝「基調講演 農村に息づく行事と祭礼」(奈良県農林部農村振興課主催・農村文化フォーラム-伝統祭事を育んできた農村文化の魅力を未来へ伝える、橿原市立かしはら万葉ホール4階研修室②、2016年11月16日)
- 第3年度伝統を現在に生かすわかやま元気塾「和歌山の伝統文化を次代に伝えるリーダーの役割を考える～伝統文化リーダー2人の提案と対論～」パネリスト(和歌山市教育委員会・公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団(和歌山市民会館)・和歌山市伝統文化活性化実行委員会主催、和歌山市民会館、2016年10月13日)
- 紀州地域学共同研究会研究集会-2016・夏(第14回学内研究交流会)公開シンポジウム『信仰空間・聖地の創出』『芸能の流布と「史跡」の形成-一説経浄瑠璃の発展をとおして-』パネリスト(紀州地域学共同研究会・和歌山大学紀州経済史文化史研究所主催、和歌山県立博物館、2016年8月28日)
- 和歌山大学紀州経済史文化史研究所2016年度公開シンポジウム『紀州地域の寺社縁起』司会兼ヴァーチャルミュージアム解説(和歌山大学紀州経済史文化史研究所主催、キャンパスイノベーションセンター東京、2016年11月26日)

(展覧会・展示)

- 紀州経済史文化史研究所2016年度特別展「道成寺の縁起-伝承と実像」(紀州経済史文化史研究所展示室[附属図書館3階]、2016年11月8日-12月16日)

- 和歌山大学紀州経済史文化史研究所企画展「和歌山大学の古文書と古典籍」(和歌山大学紀州経済史文化史研究所展示室[附属図書館3階]、2016年9月27日-10月22日)
- 和歌山大学紀州経済史文化史研究所企画展「和歌祭一茶屋小四郎が出した芸能(連尺・母衣・長刀振)」(和歌山大学紀州経済史文化史研究所展示室[附属図書館3階]、2016年4月12日-5月27日)

(メディア掲載)

- 紀伊民報「世界遺産への登録祝い獅子舞」2016年11月23日
- 関西テレビ『みんなのニュース ワンダー』『みんなのギモン「和歌山の「餅まき」なぜ盛ん？」2016年10月21日
- J:COMチャンネル11ch『デイリーニュース-和歌山』『イベント紹介コーナー「和歌祭・茶屋小四郎が出した芸能」』2016年5月25日
- FMわかやま『スペシャルバナナイベント中継』「和歌祭」2016年5月15日
- 和歌山放送ニュース「和歌山大学で御船歌うたい練り歩き」2016年4月15日
- 毎日新聞「和歌祭：道具紹介 和歌山大生が参加募る キャンパス内、きょう御船歌/和歌山」2016年4月13日

3.2.3 登録プロジェクト一覧

敬称略(2016年11月1日現在)

代表者	研究タイトル(研究ファンド)
伊藤央二	国内外のマスターズスポーツ大会参加者のスポーツツーリスト行動に関する実証研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・若手研究B)
伊藤央二	スポーツ活動が日本人青年後期の生きがいに及ぼす影響についての理論化研究(笹川スポーツ財団)
伊藤央二	スポーツツーリズム推進に係る調査業務(国立大学法人神戸大学)
大井達雄	空間統計学による観光市場の地域特性の把握と地理情報の高度化に関する研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
大井達雄	六本木アートナイトが及ぼす経済波及効果の計測に関する研究(森ビル株式会社 森美術館)

代表者	研究タイトル(研究ファンド)
大浦由美	国有林野の「協働型管理」におけるツーリズム活用・創出の意義と課題(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
大浦由美	道の駅遠山郷を核とした地域活性化に関する研究(飯田市)
大浦由美	遠山郷観光戦略計画並びに道の駅遠山郷整備計画の策定及び道の駅遠山郷を核とした地域活性化に関する研究(飯田市)
大浦由美	和歌山県「企業の森」経済波及効果に関する調査(和歌山県)
大橋直義	大和・紀伊における巡礼空間とその資料についての文献学的研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
尾久土正巳	飯田市の文化資源を活用したプラネタリウム自主番組制作等に関する共同研究2(飯田市美術博物館)
尾久土正巳	超多画素・高解像度-魚眼カメラ映像の全天球のドーム映像応用研究(キャノン株式会社)
尾久土正巳	高野山における若年層観光客増加を目的とした需要分析(高等教育機関コンソーシアム和歌山)
尾久土正巳	フレームレス超高解像度映像による東京オリンピックの博物館資料化(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
小野健吉	歴史と現状からみた庭園の観光資源としての可能性に関する研究-欧州との比較から(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究B)
海津一郎	中世の紀伊半島における歴史遺跡・名所の創作および保存・活用事業データベースの作成(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
加藤久美	環境精神文化復興による持続可能な社会の構築: 福島県相馬郡飯館村の自然信仰(三井物産株式会社)
加藤久美	精神文化にもとづく持続可能な地域づくり- 地域と世界をむすぶ芸術と観光(三井物産株式会社)
加藤久美	地域から学ぶサステナビリティ~観光の視点を活かした持続可能な地域発展にむけて(田辺市大学連携地域づくり事業費補助金)

代表者	研究タイトル(研究ファンド)
加藤久美	ツーリズムによる希望の創出:クリティカル、サステナブルツーリズムの理論と実践(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
神田孝治	観光に焦点をあてた歓待についての地理学的研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
神田孝治	「地域文化」の概念的整理と現象分析への展開—地理学方法論の試みとして—
木川剛志	「都市カーネル」を指標とした「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実践的研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・若手研究B)
北村元成	蘭島及び三田・清水の農山村景観サイン計画検討(有田川町)
佐野楓	サービス業界におけるソーシャル顧客関係管理の理論と実践に関する研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・若手研究C)
出口竜也	「田辺祭を世界に発信!」OSMとLocalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業(平成28年度「田辺市大学連携地域づくり事業費補助金」)
永瀬節治	人口希薄地域における生活生業系文化遺産を対象とした観光マネジメントに関する研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
廣岡裕一	里山・石上地区における体験型旅行コンテンツの研究開発(株式会社濱田)
廣岡裕一	旅館・ホテル経営人材育成プログラムの実施(株式会社日本経済新聞社)
藤田武弘	市民農園の新たな展開方式による都市農業再生方策に関する研究(わかやま農業協同組合)
藤田武弘	平成27年度和歌山県への移住に関するアンケート調査(和歌山県)
藤田武弘	市民農園の新たな展開と地域コミュニティの変容に関する研究(公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団)
藤田武弘	新たな人口移動を契機とする農山村地域の経済及びコミュニティの変容に関する研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)

代表者	研究タイトル(研究ファンド)
堀田祐三子	観光の発展に伴う都市空間形成の変化と生活者による空間への関与に関する研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
堀田祐三子	地域の魅力あるコンテンツの発掘(NTTタウンページ株式会社)
八島雄士	適切なガバナンス構築を支援する管理会計システムの導入研究: 地域協働型事業を中心に(公益財団法人メルコ学術振興財団)
八島雄士	DMO形成による地域の価値創造基盤再構築事業(平成28年度和歌山大学「独創的研究支援プロジェクト」A)
山口志郎	日本におけるスポーツボランティアの概念化に関する質的研究: スポーツボランティア文化の構築に向けて(笹川スポーツ財団)
山田良治	高等教育機関における観光教育のあり方に関する国際比較研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
吉田道代	同性愛者の居住地選択と都市の変容－自治体による同性婚認定の影響を読み解く(日本学術振興会: 科学研究費補助金・基盤研究C)
吉田道代	「都市カーネル」を指標とした「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実践的研究(日本学術振興会: 科学研究費補助金・若手研究B)

3.3 研究・教育サポート

3.3.1 英文論文集、出版計画

●「Tourism Planning & Development」日本特集号

日本の観光産業、観光研究・教育を取り巻く社会、経済、政治的状况についてあらゆる切り口から論じ、世界に発信するため、観光学研究の主要な学術誌であるTaylor & Francis社の「Tourism Planning & Development」の特集号として2017年の発行を目指す。本学特別主幹教授、CTR副センター長であるRichard Sharpley教授を編集主幹に、CTR研究員(山田良治理事、加藤久美観光学部教授、堀田祐三子観光学部教授)が客員編集員を務め、英語化支援も含めて出版に取り組んでいる。

●「ここからはじめる観光学」(ナカニシヤ出版、2016年12月発行)

2013年度～2014年度、文部科学省から交付を受けていた特別研究経費「観光研究の高度化・国際化推進による次世代型観光モデル創出プロジェクト」の研究成果の社会への還元を目的として発行された。観光学初学者を対象とした入門書／概説書の位置づけで、観光学部専任教員全員が執筆に参加した。



3.3.2 翻訳支援

●UNWTO Tourism Highlights 2016 翻訳支援(学生ボランティア)

CTRコーディネートの下に、観光学部及び観光学研究科から計10名の学生が有志で、過去1年間の世界観光統計のダイジェストである「UNWTO Tourism Highlights」の日本語版の制作に協力した。UNWTOが作成した英語オリジナル版の翻訳やデータの校正などを行い、完成した冊子は9月に奈良県所在UNWTOアジア太平洋センターから刊行され、和歌山大学学内を始め、国内の各種イベント等で配布されている。



3.3.3 研究資料整備

●CTR所有図書の出借開始

10月14日(金)よりCTR所有図書・オーディオ資料の出借利用を開始した。CTR研究員と本学教職員、学生が利用可能。貸し出し期間は1か月とし、主な利用規程は大学附属図書館に準拠する。蔵書はセンター保有リストの閲覧の他、附属図書館の検索システムからの検索が可能。CTR図書室は、CTRオフィスが所在する経済学部南棟1階に位置。

3.3.4 観光学部授業科目の開講支援

●特別主幹教授およびCTR専任スタッフによる授業科目開講支援

特別主幹教授6名と内容、日程について調整を行い、観光学部及び観光学研究科の一部科目（観光学部科目に関してはグローバル・プログラム(GP)対象科目)の開講を支援した。主に、CTR専任研究員との共同担当として集中講義の形式をとった。2016年度開講科目は下記の通りで、2017年度に向けても引き続き調整を行っている。さらに、CTR専任研究員4名も観光学研究科の科目およびGP対象科目それぞれ年間2～3科目を担当した。コーディネーター自身もレクチャーを行った。

●連携機関からのゲストレクチャー招へい

CTRコーディネーター主導で国内外の連携機関と招へい調整の上、ゲストレクチャーの授業開講を支援した。

●担当科目一覧 ※かっこ内は担当者

観光学部

- Community Based Tourism (Amnaj Khaokhrueamuan)
- Critical Issues in Tourism A (Thomas Hinch, Gordon J. Walker)
- Critical Issues in Tourism B (Brent W. Ritchie)
- International Organizations in Tourism (Abhik Chakraborty)
- Introduction for Global Activity (永井隼人)
- Sustainability and Management (Graham Miller)
- Tourism and Environment B (Adam Doering)
- Tourist Behavior (永井隼人)
- Tourism Policy and Law A (Anna Leask) ゲストレクチャー実施
- 観光キャリアデザイン (CTRコーディネーター: 中元、藤井、村野) ゲストレクチャー実施 (計6回)
- 観光学概論 (福田純一氏: UNWTO アジア太平洋センター) ゲストレクチャー実施
- World Tourism Destinations (Ariana Luquin Sanchez氏: UNWTO アジア太平洋センター) ゲストレクチャー実施
- 特別講義 (Hae-Guk Hwang氏: UNWTO) ゲストレクチャー実施

観光学研究科

- Critical Issues in Nature Based Tourism (Abhik Chakraborty)
- Critical Tourism Studies (Adam Doering)
- Leisure and Sport Tourism (Thomas Hinch, Gordon Walker)
- Sustainability and Management (Graham Miller)

- The Ethics of Tourism and Travel(Adam Doering)
- Tourism Development and Community(Amnaj Khaokhrueamuan)
- Tourism Research Methods(永井隼人)
- Tourism Risk Management(Brent Ritchie)

●GIPの支援

観光学部の海外研修プログラムであるGIP(Global Intensive Project)の実施にあたり、以下3か国への3つのプログラムに係る事前説明会の開催や窓口対応、旅行手配、事前/事後学習及び報告会開催等の業務を行った。

派遣先	期間	滞在形態	目的・活動内容
Hertford College Oxford, UK	3週間	学生寮	英語語学研修及び、イギリスの文化と観光に関する授業の受講。
The University of Queensland 他, Australia	2週間	ホームステイ	「環境と観光」をテーマに自然利用型観光地での環境保護の取り組みや多文化社会オーストラリアでの観光事情について学ぶ。
University of Alberta, Canada	4週間	ホームステイ	「英語とカナダの文化」をテーマに語学研修及び、野外リクリエーション活動を通じてカナダ文化を学ぶ。現地観光局や観光地の視察も実施。

●LIPプログラム化支援

公益財団法人みやざき観光コンベンション協会からの依頼に基づき、同協会が推進するサーフィン等マリンスポーツを取り入れた観光スタイル「波旅宮崎」を海外からの観光客や若年層に展開していくためのモニターツアーに対する学生派遣をサポートした。モニターツアーは8月および12月に各1回実施され、8月には留学生を派遣し外国人観光客の視点から、12月には本学地域インターンシッププログラム(LIP)として観光学部生を派遣し、大学生の視点からモニターおよびフィードバックを実施した。

3.3.5 GP受講学生支援

●英語サポートクラス

観光学部生を対象に、GP対象科目受講の支援のため、英語のコミュニケーション能力(会話、ディスカッション、プレゼンテーション)の向上を目的とした英語サポートクラス「English Communication Class for Tourism Students」を開講した(単位付与のある正規科目ではない)。前期初級が登録40名(定員40名)、中級が13名(定員30名)、後期初級12名(定員40名)、中級14名(定員30名)。

併せて、TOEIC自主演習のサポートも行った。履修登録は33名(募集30名+追加3名)、単位認定された学生は2名であった。

●GP受講学生のコンサルテーション

英語によるGP対象科目を受講するにあたり、学生の個別相談を実施し、学生の学びの進捗を確認した。

●新入生宿泊研修参加

毎年開催される観光学部新入生宿泊研修にCTR専任研究員が参加した。本年は6月4日(土)と5日(日)に実施され、例年同様、南紀白浜等和歌山県南部地域の主要な観光地を訪問した。

3.3.6 外部機関連携活動の支援・促進

3.3.6.1 国際機関との連携

●太平洋アジア観光協会(PATA)インターン派遣、学生支部設立

PATA(Pacific Asia Travel Association)は、太平洋アジア地域への観光客誘致及び域内交流の活性化を目的に、1951年にハワイで設立された非営利の広域観光団体で、世界各国の2万を超える官民学の幅広い組織が加盟している。本学観光学部も2013年度より会員となった。CTRの支援の下、2016年3月からはPATA本部のあるタイ、バンコクにおけるインターンシッププログラムに学生1名を3ヵ月間派遣した。

さらに、2016年11月には、CTRの主導で国内初となるPATA学生支部を発足し、PATAの活動をサポートする学生団体として、観光学部の学生22名が支部スタッフを務め、学内外の国際セミナーや国際交流プロジェクトに取り組んでいる。



●ASEAN Plus Three Tourism Youth Summit 2016への派遣協力

観光学部生2名が東南アジア諸国連合(ASEAN)・フィリピン政府観光省共催「ASEAN Plus Three Tourism Youth Summit 2016」に日本からの学生代表(3名のうち2名)として参加。ASEAN10カ国および日本の計11カ国から観光を学ぶ学生などが6月19日(日)から1週間、フィリピン共和国ネグロス島およびシキホール島に集結し、開催地域の観光地視察やアクティビティを通して交流を深めた。CTRでは日本国政府国土交通省観光庁からの要請に基づき、観光学部との間で調整を行い、派遣する学生の選考および派遣に係る旅行事務等をサポートした。



●UNWTO国際会議運営学生ボランティア派遣協力

奈良県で6月1日(水)から4日(土)に開催された「UNWTOアジア太平洋地域及び南アジア地域合同委員会(合同地域委員会)」及び「UNWTO観光と技術に関する国際会議」の開催運営ボランティアとしての学生派遣に協力した(運営者との調整及び、学生の宿泊等の手配、事前研修を実施)。観光学部及び観光学研究科から計12名の学生が運営ボランティアとして、世界20以上の国や地域から集まった代表団のリエゾン業務や会場での運営支援などに従事した。終了後には、UNWTO事務局長Taleb Rifai氏から直々に一人一人へ感謝状が贈られ、後に観光学部長表彰も授与された。



●UNWTO 学生ボランティアグループ(仮)活動支援

UNWTO関連イベントにボランティアとして参加した学生による活動報告会が12月13日(火)に開催され、CTRではこの開催をサポートした。

3.3.6.2 海外研究教育機関との提携

●サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学との大学間協定拡充

2015年に締結した本学とスペイン、ガリシア州のUniversity of Santiago de Compostela (USC)の大学間連携協定を発展させ、観光学研究科博士後期課程の研究教育の新たなプログラムを創設した。プログラムは、博士後期課程の学生が双方の研究機関で一時的に調査研究する際の受け入れを行うものであり、研究教育交流をさらに深化させることが可能となった。

その他にも各国の研究教育機関との提携機会を探り、積極的にネットワークを展開していく方針。

3.3.6.3 国内教育機関との連携

●鹿児島県立甲南高校の大学訪問研修プログラムにおける模擬講義の実施

鹿児島県立甲南高校は文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定され、国際的に活躍できる人材の輩出に取り組んでおり、昨年につき、交流事業の一環として高校生11名が2月8日(水)に本学観光学部を訪問した。プログラムの一部である模擬講義では、CTR専任研究員が英語での講義を実施した。また、高校生による英語での研究発表会にCTRスタッフも参加し、質疑やディスカッションに加わった。

3.3.7 UNWTO. TedQual申請

「UNWTO. TedQual」とは、UNWTOの関連組織であるUNWTO Themis Foundationの実施する観光学教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的とした認証制度である。世界基準の評価を受けるだけでなく、観光教育、研究のグローバルネットワーク(交換プログラム、共同研究、国際学会等)への参加やThemis Foundationとの共同プログラムの実現が可能となる。国際舞台での本学観光学部及びCTRのプレゼンスを高め、日本そしてアジア太平洋地域における観光学研究の牽引機関としての発展が期待される。国内初となる本システムの認証取得を目指し、全学プロジェクトとしてCTR主導で申請準備を進め、11月28日(月)から3日間の現地監査にも対応した。結果通知は次年度となる見込み。



3.3.8 GP担当教員のFD活動支援

●GP担当者会議開催の支援

GP担当者会議を3回開催し、その開催に際しての準備調整を行った。

●オンライン講座受講を通じた国際観光教育およびE-learningのあり方に関するFD活動支援

観光学部GPカリキュラム担当教員を対象に、香港理工大学にて12月から新たに開講されたオンライン講座の受講をサポートした。各8週間計4コースの受講となる「MicroMasters in International Hospitality Management」は、ホスピタリティ分野におけるグローバルリーダーを目指してテクノロジーを活用したビジネスマネジメントの知識と技能を身につけることを目的としている。すべてオンラインにて英語で開講されている。今後も要望に応じて、さまざまなFaculty Development(FD)プログラムの支援を進めていく方針。

3.4 広報、アドボカシー

3.4.1 学会スポンサー参加

6月1日(水)から4日(土)にかけ、Asia Pacific Tourism Association (APTA)の第22回大会が中国で開催された。APTAは1995年に創設された国際学会で、有力学術雑誌Asia Pacific Journal of Tourism Researchを発行するなど、アジア太平洋地域で最も活発な観光研究の国際学会の1つであり、今大会にはアジアを中心に世界各国から約200名の研究者が参加した。本学では昨年度からスポンサーとしてAPTAの年次大会に協賛しており、大会期間中はスポンサー紹介パネルが会場に設置された他、学会プログラムに広告が掲載され、研究発表参加に加えて多くの国外の研究者に本学の観光教育、研究について紹介する機会となった。



3.4.2 オープンキャンパスでの広報活動

7月17日(日)に開催されたオープンキャンパスでは、観光学部棟内でCTR紹介のためのポスターを掲示し、CTR担当者が常駐し説明を行った。主に国際関係や英語での学習に関心のある高校生に加えてその保護者も数多く訪れた。GPカリキュラム等の紹介だけでなく、学部から博士前期課程、後期課程まで一貫した教育・研究環境が整っていること、CTRの開設によりその体制が強化されていることをアピールした。



3.4.3 ニュースレター発行

CTRと観光学部の観光教育サポートオフィスとの共同編集・発行による年2回発行のニュースレター「WTU(Wakayama University Tourism Update)」が4月と10月に発行された。CTR・観光学部それぞれの国内外の観光研究情報の発信及び国内外問わず活動している学生の取り組みについて紹介している。学内や関係各所に配布された他、両センターのホームページ上にも掲載された。

3.4.4 外部機関との連携促進

●UNWTO各会議、地域大会参加、招へい等

■「UNWTOアジア太平洋地域及び南アジア地域合同委員会(合同地域委員会)」及び「UNWTO観光と技術に関する国際会議」出席

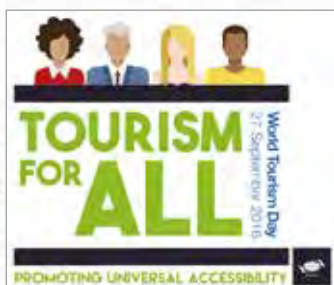
和歌山大学がアフィリエイト・メンバーとして参画するUNWTO(国連世界観光機関)は、6月1日(水)～4日(土)に、日本政府観光庁と共催で奈良県奈良市のなら100年会館にて「観光と技術に関する国際会議」を開催。今回の会議では、交通技術や情報通信技術等の先端技術が観光をどのように変革していくかについて議論された。

本学からはCTRの支援の下、観光学部及び観光学研究科から計12名の学生が運営ボランティアとして参加した(詳細48ページ参照)。



■「世界観光の日」記念講演「Tourism “Education” for All」を開催

UNWTOが定めた「世界観光の日(World Tourism Day)」を記念し、CTRは本学観光学部及び、阪南大学、関西観光教育コンソーシアムと共催で、9月28日(水)に公開講演を開催した。大阪あべのハルカスにて開催されたこのイベントには学術界、産業界や観光を学ぶ学生など40名を超える参加者が集まった。UNWTOや世界観光の日の概要、及びこれを記念したイベントが世界各地で開催されていることについて紹介があり、その中でUNWTOのTaleb Rifai事務局長の世界観光の日を祝したビデオメッセージが上映された。「Tourism “Education” for All」と題したProf. Richard Sharpley(本学特別主幹教授/ University of Central Lancashire)の基調講演では、持続可能な観光への提言が述べられた。



さらに、本学学生ボランティアの翻訳協力(詳細下記参照)の下、UNWTOアジア太平洋センターから発行された「UNWTO Tourism Highlights 2016 日本語版」が配布された他、UNWTOが普及を啓発する責任ある持続可能な観光を促進するために観光関係者が留意すべき経済、社会、文化、環境等に関する規範である「世界観光倫理憲章」も参加者全員に配布され、これをまとめたポスターパネルが展示されるなど、UNWTOの理念を凝縮した「世界観光の日」記念イベントとなった。

■UNWTO Tourism Highlights 2016 翻訳支援(学生ボランティア)

UNWTOが編集発行し、過去1年間の世界観光統計のダイジェストである「UNWTO Tourism Highlights」の日本語版発行にあたり、本学観光学部の有志学生による翻訳ボランティアの支援をCTRにて行った。本活動を紹介する、学生チームによるプレゼンテーション及びポスター展示が、上述の世界観光の日記念講演会と同時開催された(9月28日)。刊行された日本語版冊子は、同イベントの参加者全員に配布された他、和歌山大学学内を始め、日本各地で配布されている。

■UNWTO関係者による特別講義

12月13日(火)にUNWTOアジア太平洋地域部副部長Hae-Guk (Harry) Hwang氏による英語でのゲストレクチャー「Why I believe you made right choice of studying tourism」を開催。観光学部及び観光学研究科から多くの学生が参加した。Hwang氏来日中には、UNWTO 学生ボランティアグループ(仮)のメンバーが高野山視察を案内した他、懇談会も行なわれ、学生たちは観光分野の国連機関の役割について学んだ他、観光分野に携わることの意義を考える機会を得た。



■UNWTOアジア太平洋センターによる特別講義

★「観光学概論」特別講義

福田純一副代表(UNWTOアジア太平洋センター)を「観光学概論」のゲストスピーカーにむかえ、UNWTOの役割や同アジア太平洋センターの位置づけおよび事業についてご紹介いただいた。本講義内では、UNWTOが提唱し、本学もアフィリエイト・メンバーとして同意している世界観光倫理憲章についてCTRスタッフにより解説が行われた。



★「World Tourism Destinations」特別講義

事業・広報部課長Ariana Luquin Sanchez氏による英語でのゲストレクチャーが11月30日(水)、観光学部のGP科目「World Tourism Destinations」として行われた。UNWTO及び地域支援オフィス(UNWTOアジア太平洋センター)の役割や、UNWTOが定める世界観光倫理憲章の紹介の他、DMOの重要性について、自身が米国滞在時代に勤務していた経験を基に学生たちに伝えた。講義後は、UNWTO 学生ボランティアグループ(仮)のメンバーとの懇談会を行った。



3.4.5 学会、イベント参加等

3.4.5.1 参加報告

●「日本地球惑星連合大会」出席

5月22日(月)から26日(木)の5日間に渡り、千葉で開催された日本地球惑星連合大会にCTR専任研究員Dr. Abhik Chakrabortyが参加し、観光学に関連した2件の研究発表を行った。さらに、“Complexity, Change and Adaptive Management of Socioecological Landscapes: An Earth System Perspective”と題したセッションの共同コンビーナも務めた。

毎年行われる同大会は日本国内で開催される地学関係の最大の学術大会であり、米NASAや、国内の宇宙航空研究開発機構(JAXA)、海洋研究開発機構(JAMSTEC)をはじめ、数多くの研究組織が参加・出展している。

●「APTA 2016 Annual Conference」出席

中国・北京で6月1日(水)から4日(土)にかけ、Asia Pacific Tourism Association (APTA)の第22回大会が開催された。CTRからは、Tourism Managementユニットの佐野楓観光学部准教・CTR研究員と永井隼人CTR専任研究員が、研究論文を口頭発表した。

APTAは1995年に創設された国際学会で、有力学術雑誌Asia Pacific Journal of Tourism Researchを発行するなど、アジア太平洋地域で最も活発な観光研究の国際学会の1つであり、今大会にはアジアを中心に世界各国から約200名の研究者が参加した。本学では昨年度からスポンサーとしてAPTAの年次大会に協賛しており、大会期間中はスポンサー紹介パネルが会場に設置されるなど、多くの国外の研究者に本学の観光教育、研究について紹介する機会となった。ちなみに和歌山大学は2015より本学会のスポンサーとして参加している。



●「オーストラリア学会「2016年度総会・全国研究大会」及び「第9期第7回理事会」共催

オーストラリア学会は1989年の設立以来、オーストラリアに関する学際的研究の促進を目的に、教育・研究関係者の相互の協力を図り、日本人を中心とした会員が主に国内で活動している。例年開催している年次大会を本年度は本学で実施することとなり、観光学にも関連する国際学会ということでCTRも共催した。6月11日(土)と12日(日)の2日間、本学を会場に、オーストラリアからも講演者を招へいた他、和歌山県とも関連の深い邦人を特集した企画展も同時開催した。CTR研究員がシンポジウムやパネルディスカッションに多数登壇した。



●「2016 Global Marketing Conference」出席

2年に一度開催される国際学会Global Marketing Conference (GMC)は、American Marketing Association, European Marketing Academy, Japan Society of Marketing and Distribution, Korean Scholars of Marketing Scienceなどの学会の協賛により、毎回50か国以上の研究者がエントリーしており、採択率はおおよそ40%とされている。7月21日(木)からの4日間、香港で行われた2016年大会にはCTRから佐野楓 観光学部准教授が参加し、Advancing Tourism and Hospitality Marketingセッションで研究発表を行った。

●「The 2nd EAJS Conference in Japan」出席

9月24日(土)と25日(日)に神戸で開催されたEuropean Association of Japanese Studies (EAJS) ConferenceにCTR専任研究員のDr. Abhik Chakraborty参加し、日本における山岳観光(アルパイン・ツーリズム)の展開と変遷について研究発表を行った。EAJSは、Japan Studies (日本研究)に特化した学会として 最大規模の学者の集まりであり、その学術大会では、社会科学、歴史・文学や国際関係の分野における先端研究について発表が行われることも多く、本年は2020年の東京オリンピックや地域再生など、観光に関連した課題を取り上げた発表も見受けられた。

●「International Conference of Asian Marketing Associations」出席

中国・北京で10月21日(金)に行われた2016 International Conference of Asian Marketing Associations (ICAMA) にCTR研究員 佐野楓 観光学部准教授が参加し、Marketing Strategy Iのセッションにおいて、観光業界を対象としたSocial Customer Relationship Managementに関する研究発表を行い、2016 ICAMAのベストペーパーを受賞した。ICAMAは、日本、中国、韓国の主要なマーケティング学会によって立ち上げられた国際学会で、本大会は「アジア市場におけるマーケティング・イノベーションー挑戦と機会」というテーマで開催された。



●「International Conference on Emerging Tourism in the Changing World」出席

11月12日(土)と13日(日)にタイのチェンマイで開催された学会「International Conference on Emerging Tourism in the Changing World」にCTR専任研究員であるDr. Amnaj Khaokhrueamuangが参加し、研究論文を発表した。和食を成功モデルとして、タイの食文化と農業文化をフードツーリズムへ発展させる観光振興について論じた。本学会は、フィルムツーリズム、ボランティアツーリズム、フードツーリズム、ヘルス/メディカルツーリズム、ダークツーリズム、トランスバウンダリーツーリズムといったテーマを含む、新しいタイプのツーリズムに焦点を当て、活発な議論が行われた。



●「TTRA Asia Pacific Chapter Conference」出席

アラブ首長国連邦ドバイにて12月2日(金)から3日間の日程で開催された第4回Travel and Tourism Research Association (TTRA) Asia Pacific Chapter Conferenceに永井CTR専任研究員が参加した。ともにCTR研究員、Tourism Managementユニットに所属するBrent W. Ritchie本学特別主幹教授(The University of Queensland)及び、佐野楓本学観光学部准教授との共著論文を口頭発表した。

●観光学術学会「第4回研究集会」共催

観光学術学会は、日本における理論的な観光学研究推進を目的に2011年に設立され、若手研究者の育成にも力を入れている。年1回の全国大会や研究会を開催しており、2月19日(日)に本学で実施された本研究集会は、CTRが共催した。また、CTR副センター長Richard Sharpley(本学特別主幹教授/ University of Central Lancashire)が「20 Years of Dark Tourism Research: Which way now?」と題した基調講演に登壇した。

3.4.5.2 CTR出席イベント一覧

日程	イベント名	主催
4/5~4/8	WTTC Global Summit	WTTC (World Travel & Tourism Council)
5/22~5/26	日本地球惑星連合大会	日本地球惑星科学連合

日程	イベント名	主催
6/1～6/4	「UNWTOアジア太平洋地域及び南アジア地域合同委員会(合同地域委員会)」及び「UNWTO観光と技術に関する国際会議」	UNWTO
6/1～6/4	APTA 2016 Annual Conference	APTA (Asia Pacific Tourism Association)
6/11～6/12	オーストラリア学会2016年度総会・全国研究大会	オーストラリア学会
6/30	第3回世界観光機関(UNWTO)活用検討会	観光庁
7/5	スペインガリシア青少年交流会	和歌山大学観光学部
7/9～7/10	観光学術学会第5回全国大会	観光学術学会
7/21～7/24	2016 Global Marketing Conference	Global Marketing Conference
7/29	アカデミックセミナー2016 大学のグローバル化の進展と、その過程としての研究・教育支援における新たな展開	丸善雄松堂
9/22	ツーリズムEXPOジャパン2016	公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会(JATA)
9/24～9/25	The 2nd EAJS Conference in Japan	EAJS (European Association of Japanese Studies)
9/28～9/30	The 2016 TTRA Canada Conference	TTRA (Travel and Tourism Research Association)

日 程	イベント名	主 催
9/30～10/1	日本地理学会秋季学術大会	日本地理学会
10/21	2016 International Conference of Asian Marketing Associations	International Conference of Asian Marketing Associations
11/12～11/13	International Conference on Emerging Tourism in the Changing World	Center for Asian Tourism Research, Research Administration Center, Chiang Mai University, Thailand
11/24	2020年に向けた国際セミナー 変わる社会・経済・環境 ～2020年に向けたアプローチ	三菱UFJリサーチ&コンサルティング日本2020戦略室
11/29	第4回世界観光機関(UNWTO)活用検討会	観光庁
12/2～12/4	2016 TTRA Asia Pacific Chapter Conference Pushing the Boundaries: Driving Tourism Innovation & Creativity Through Research	TTRA (Travel and Tourism Research Association)
12/21	グローバル観光セミナー/UNWTOアジア太平洋センター	一般社団法人アジア太平洋観光交流センター、UNWTOアジア太平洋センター
2/7～2/10	CAUTHE 2017 Annual Conference	CAUTHE (Council for Australian Tourism and Hospitality Education)
2/19	観光学術学会第4回研究集会	観光学術学会

(2017年2月現在)

3.4.6 オープンセミナーの企画・運営

- 観光教育研究セミナー(全11回)
- 公開セミナー、ワークショップ(全5回)
- 世界観光の日(World Tourism Day) 記念講演会

3.4.6.1 開催イベント一覧

開催日	イベント名	ポスター
4/12(火)	公開セミナー「熊野古道に外国人観光客を呼び込む着地型観光～世界に開かれた持続可能な観光地を目指して～」	
	<p style="text-align: center;">講師等</p> <p>多田 稔子氏(一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長) Brad Towle氏(一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー プロモーション部長)</p>	
5/17(火)	公開セミナー「Publishing Research Papers in International Journals」	
	<p style="text-align: center;">講師等</p> <p>Prof. Brent W. Ritchie(和歌山大学特別主幹教授、The University of Queensland)</p>	

開催日	イベント名	ポスター
5/18(火)	ワークショップ「Understanding International Tourism Journals: How and Where to Publish」	
	<p>講師等</p> <p>Prof. Brent W. Ritchie (和歌山大学特別主幹教授、The University of Queensland)</p>	
6/17(金)	観光教育研究セミナー2016 Vol.1 「日本におけるスポーツツーリズム～和歌山大学での国際共同研究について～」	
	<p>講師等</p> <p>Prof. Tom Hinch (和歌山大学特別主幹教授、University of Alberta)、 Prof. Gordon J. Walker (和歌山大学特別主幹教授、University of Alberta)</p>	
7/4(月)	観光教育研究セミナー2016 Vol.2 「100年後も雪国であるために～雪国観光圏が進める観光地域づくりについて～」	
	<p>講師等</p> <p>井口 智裕氏 (株式会社いせん代表取締役)</p>	

開催日	イベント名	ポスター
7/12(火)	観光教育研究セミナー2016 Vol.3 「Re-visiting the Tourist Gaze」	
	講師等 Prof. Jonas Larsen (Roskilde University)	
開催日	イベント名	ポスター
7/13(水)	Masterclass 「Sustainable Mobility in Japan」	
	講師等 Prof. Jonas Larsen (Roskilde University)	
開催日	イベント名	ポスター
8/9(火)	観光教育研究セミナー2016 Vol.4 「スポーツツーリズム ～メガイベントが日本社会を変える～」	
	講師等 Prof. Tom Hinch (和歌山大学特別主幹教授、University of Alberta)、 仙台 光仁氏(スポーツ庁 参事官(地域振興担当))、 伊藤 央二講師(和歌山大学)	

開催日	イベント名	ポスター
9/28(水)	World Tourism Day 世界観光の日 記念講演会「Tourism "Education" for All」	
	講師等	
	Prof. Richard Sharpley (和歌山大学 特別主幹教授、University of Central Lancashire)	
開催日	イベント名	ポスター
10/27(木)	観光教育研究セミナー2016 Vol.5 「人新世」におけるサステナブル・ ツーリズムの課題と可能性」	
	講師等	
	Dr. Abhik Chakraborty (和歌山大学CTR)	
開催日	イベント名	ポスター
12/17(土)	観光教育研究セミナー2016 Vol.7 「観光からみた宇宙」	
	講師等	
	山崎 直子氏 (CTR客員特別研究員、内 閣府宇宙政策委員会)、 尾久土 正己教授 (和歌山大学) 磯部 洋明准教授 (京都大学大学院)、 秋山 演亮教授 (和歌山大学)、 梶田 太陽氏 (和歌山大学1回生) 中里 真氏 (京都大学大学院1回生)	

開催日	イベント名	ポスター
12/22(木)	観光教育研究セミナー2016 Vol.8「I am not a tree: On relationality and becoming in travel, tourism, and sport」	
	講師等 Dr. Adam Doering (和歌山大学CTR)	
開催日	イベント名	ポスター
1/19(木)	観光教育研究セミナー2016 Vol.9「The role of the Edinburgh World Heritage Trust in Managing a World Heritage City」	
	講師等 Prof. Anna Leask (和歌山大学特別主幹教授、Edinburgh Napier University)	
開催日	イベント名	ポスター
2/23(木)	公開セミナー「世界遺産の順応的ガバナンスとその守り手としてのサステイナブル・ツーリズム」	
	講師等 吉田 正人教授(筑波大学大学院人間総合科学研究科世界遺産専攻 専攻長・教授、国際自然保護連合(IUCN)世界保護地域委員会委員)、 福永 真弓氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)	

開催日	イベント名	ポスター
3/2(木)	観光教育研究セミナー2016 Vol.10 「Wakayama in the Perception of Thai Tourists: Opportunities and Challenges」	
	講師等	
	Dr. Amnaj Khaokhruamuang (和歌山大学CTR)	
開催日	イベント名	ポスター
3/2(木)	観光教育研究セミナー2016 Vol.11 「Tourism Management Research: What, Who and Why」	
	講師等	
	永井 隼人講師(和歌山大学CTR)	

3.5 その他

●CTR開所式典

4月1日(金)にCTRの開所記念式典およびテープカットが行われた。現経済学部南棟1階を改修し、CTRテーマカラーの若草色をポイントに和モダンをコンセプトとしたオフィスが完成し、設置準備室のオフィス(本部事務棟3階)から移転した。CTR研究員研究室を始め、研究交流室や会議室なども整備している。





 国際観光学研究センター
Center for Tourism Research

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

【発行】和歌山大学国際観光学研究センター

〒640-8510 和歌山市栄谷930

電話 073-457-7025

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>

【発行日】2017年3月



Center for Tourism Research

2016年度 年次報告書
和歌山大学 国際観光学研究センター